

投資ガイド

VALE UN PERU

(バレ・ウン・ペルー)

2025

80°W

75°W

70°W



PERÚ

Ministerio de Relaciones Exteriores

Consejo Nacional de Desarrollo de Fronteras e Integración Fronteriza

Secretaría Ejecutiva



0°

0°

5°S

5°S

10°S

10°S

15°S

15°S

ECUADOR

COLOMBIA

BRASIL

PERÚ

BOLIVIA

CHILE

Tumbes

TUMBES

Piura

PIURA

LAMBAYEQUE CAJAMARCA

Chiclayo

Chiclayo

Chachapoyas

SAN MARTÍN

PERÚ

Trujillo

LA LIBERTAD

Pucallpa

Pucallpa

Huaráz

ANGASH

Huánuco

Huánuco

Cerro de Pasco

PASCO

LIMA

Callao

Callao

Lima Cercado

Huancayo

Huancayo

Huancavelica

HUANCVELICA

Ayacucho

AYACUCHO

Idaia

ICA

Abancay

APURÍMAC

Cusco

CUSCO

Cusco

Cusco

AREQUIPA

Arequipa

Arequipa

Moquegua

MOQUEGUA

Moquegua

Moquegua

Tacna

TACNA

Tacna

Tacna

Iquitos

Iquitos

Rio Marañón

Huancabamba

Rio Javari

Reserva Nacional Pacaya-Samiria

Parque Nacional Alto Purús

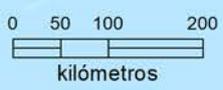
Parque Nacional del Manu

Rio Madre de Dios

Puerto Maldonado

Cusco

Océano Pacífico



80°W

75°W

70°W

ビジネスガイド
VALE UN PERU
(バレ・ウン・ペルー)
2025





ウーゴ・デ・セラ ペルー共和国外務大臣のメッセージ

この度は、日本との友好・協力関係を一層強化する取り組みの一環として、2025年版投資ガイド『Vale un Peru (バレ・ウン・ペルー)』の第4版をお届けできることを大変喜ばしく思います。本書は、ペルーの経済概況、投資機会、そして戦略的分野について、実用的かつ包括的な視点を提供するものであり、両国間のより緊密な連携と持続可能な成長を促進するという我々の決意を示すものです。

ペルーと日本は、具体的な戦略的イニシアティブを通じて二国間関係をさらに深めています。2024年11月には、日本の石破首相がペルーを公式訪問し、「両国は「日・ペルー戦略的パートナーシップ強化のためのロードマップ」を採択し、貿易、投資、イノベーション、持続可能な開発における協力の枠組みを構築しました。この節目となる出来事は、2025年8月

のペルー大統領の公式訪日によりさらに確固たるものとなり、日・ペルー経済委員会 (CEPEJA) 年次総会、ペルー投資セミナー「Invest Peru-Japan」、および大阪・関西万博2025での「ペルー・デー」の開催を通じて、両国の関係が一層強化されました。

ペルーのマクロ経済の基礎的条件は、引き続き堅調です。2024年の経済成長率は3.3%を記録し、2025年も持続的な成長が見込まれています。輸出額は過去最高の740億米ドルに達し、潤沢な外貨準備高、低インフレ率、そして安定した投資適格級の格付けは、ペルー経済に対する国際的な信頼を裏付けています。

鉱業は、引き続き経済成長の基盤となっています。2024年の銅生産量は270万トンに達し、輸出額は約490億米ドル、新規投資額は50億米ドル、そして23万8,000人以上の雇用を創出しました。640億米ドル相当の67件のプロジェクトに加え、リチウムやレアアースといった重要鉱物における新たなビジネスチャンスも生まれており、ペルーは世界のエネルギー転換において中心的な役割を果たす上で、有利な立場にあります。

インフラやアグリビジネスの分野においても、多くの機会が存在します。港湾、物流拠点、輸送回廊など、約500億米ドル規模のプロジェクトが計画されており、灌漑事業によって130万ヘクタール以上の生産農地が拡大される予定です。太平洋岸に位置するペルーの戦略的な立地は、南米とアジアを結ぶ天然のゲートウェイとしての地位を確固たるものにしていきます。

こうした将来性は、開かれた経済と強固な法制度によって支えられています。輸出の90%をカバーする22の貿易協定に加え、法的安定性契約や税制優遇措置に後押しされ、投資家は長期的プロジェクトにおいて予測可能で透明性の高い環境の恩恵を受けることができます。持続可能性は、依然としてペルーの成長戦略の中核をなしており、炭素税、化石燃料補助金の削減、再生可能エネルギーの推進といった取り組みが進められています。

150年以上にわたり、ペルーと日本は、信頼、友好、そして相互尊重に基づいた関係を共有してきました。1899年に「佐倉丸」で最初の日本人移民が到着してから、今日の活力ある日系社会に至るまで、両国の絆は深く社会・文化的に結びついています。日本はペルーにとって世界で7番目、アジアでは3番目に大きい貿易相手国であり、2024年にはペルーの総輸出額の5%を占めました。銅、ガス、亜鉛、コーヒー、魚粉といった伝統的な産品に加え、日本企業は「アンデス横断道路4号線」をはじめとする象徴的なインフラプロジェクトにも積極的に参画しており、これは信頼できるパートナーとしてのペルーへの信頼を反映するものです。

今後、日本企業がペルーの発展に貢献し続ける機会、大いに広がっています。鉱業分野では、既に日本企業が銅やリン酸塩のプロジェクトに携わっています。アグリビジネスにおいては、ペルーの生物多様性と季節が逆であることによる生産体制が競争上の優位性をもたらしており、その成功は、日本市場におけるペルー産ブドウやアボカドの人気に象徴されています。また、インフラ分野では、港湾、物流拠点、クリーンエネルギー施設な

ど490億米ドル規模の巨大プロジェクトが、ペルーとアジアとの連結性を一層高めることでしょう。

日本の投資家の皆様には、ぜひこれらのビジネスチャンスをご検討いただきたく存じます。本ガイドブック『Vale un Perú (バレ・ウン・ペルー)』は、皆様の投資判断を後押しし、ペルーと日本、そして世界市場との経済的パートナーシップを強化するための一助となるよう作成されました。

東京にて、2025年



ロベルト・セミノリオ・
ポルトカレロ
駐日ペルー大使のメッセージ

この度は、2025年版投資ガイド『Vale un Peru（バレ・ウン・ペルー）』を皆様にご覧いただき光栄に存じます。本書は、信頼できる投資先としてのペルーの可能性と堅実性を示すとともに、持続可能で競争力ある経済成長を推進するペルー政府の決意を反映するものです。

2024年、ペルーは鉱業分野において歴史的な成果を収めました。鉱物輸出額は487億4,800万米ドル、銅の生産量は270万トン、鉱業における直接雇用は23万9,000人を超えました。さらに、年間鉱業投資額は50億200万米ドルに達し、財政収入や地方への移転に大きく貢献しました。これらの成果は、鉱業が我が国の経済・社会発展の原動力となっていることを改めて裏付

けるものです。

2025年の鉱業投資プロジェクトポートフォリオには、総額640億米ドルを超える67件のプロジェクトが含まれており、これらは全国19の州に分布し、銅・金・亜鉛が中心となっています。また、探鉱プロジェクトは84件、総額10億3,900万米ドル以上にのぼり、世界の投資家からのペルーへの関心が再び高まっていることを示しています。中でも、世界的なエネルギー転換やハイテク産業に不可欠なリチウムやレアアースに関連するプロジェクトが特に注目されます。

ペルーは、単に鉱業が盛んな国というだけでなく、銅の工業化も進めています。溶錬所の近代化や精錬所の整備、銅カソードや線材の加工プラントの推進といった取り組みは、付加価値の向上、戦略的サプライチェーンの強化、国際市場における新たな機会の開拓を目指すものです。

投資先としてのペルーの魅力を支えるもう一つの柱は、我が国の有利な法制度です。法的安定性、自由な資本移動、国内外投資家の無差別待遇、国際的な紛争解決機関へのアクセス、製造前段階における付加価値税（IGV）の早期返還、また、長期的な安定性を保証する税制安定化制度等、こうした枠組みがペルーに対する国際資本の信頼を確固たるものにしています。

インフラ分野においては、引き続き官民連携（PPP）や政府間（G2G）協定といったスキームが、運輸、エネルギー、公共サービスといった戦略的分

野における大型プロジェクトの推進に不可欠となっています。2024年だけでも、ProInversion（民間投資促進庁）は、総額60億米ドルを超えるプロジェクトを契約し、この10年間で最高の水準に達しました。

同じくインフラ分野の促進という意味において、先般「中南米地域へのインフラ海外展開に関する官民連携プラットフォーム（PLACIDA）」が立ち上げられたことは、特に注目すべきです。この取り組みは、日本の外務省（MOFA）、経済産業省（METI）、国土交通省（MLIT）が推進するもので、日本企業の投資をこの地域に向かわせることを目的としています。特に、発足に際しては、ペルーが優先的投資先として挙げられ、今後の協力を目指し、注力すべき国としてMLITの強い関心が示されたことは特筆に値します。ですから、PLACIDAは戦略的手段であると同時に、ペルーにおける質の高いインフラ開発に対する日本の関心を明確に示すものと言えます。

また、ペルーの非伝統的輸出の柱である農産物輸出部門も、非常に活気があり、将来性が期待できます。2025年初めの数か月、日本向け非伝統的輸出は69.5%という目覚ましい成長を記録し、これは、輸出品目の多様化戦略の成功を裏付ける重要な指標となっています。この勢いは、生鮮ブルーベリー等の高付加価値製品の進出に向けた取り組みの進展にも反映されています。特に、ブルーベリーについては、ペルーは世界有数の輸出国ですが、日本市場参入に向けた交渉は、既に複雑な技術的段階をクリアしており、近い将

来、好ましい結果が得られるとの明るい見方が広がっています。この市場開放は、ペルー農産物の地位をさらに強固なものとし、将来の輸出にとって貴重な前例を築くこととなるでしょう。

経済予測によれば、ペルーは、民間投資、国内需要、生産の多角化等に牽引され、2026年から2028年にかけて3%前後の安定的なGDP成長率を維持することが見込まれています。こうした状況において、日本との二国間関係は、長期的な戦略的パートナーシップとして、一層強化されています。技術革新や運用の優位性（Operational Excellence）で認められている日本にとって、ペルーは、豊富な資源を有し、鉱業、エネルギー、インフラ、新技術等のプロジェクトに有利な枠組みを備えた信頼できるパートナーとして位置づけられています。さらに、150年以上に及ぶ外交関係と活力ある日系社会は、両国を結びつける強固な架け橋となっています。

日本の投資家の皆様には、ぜひ本ガイドをご覧ください。ペルーが提供するビジネスチャンスに関する詳細な情報をご確認いただければ幸いです。我々が力を合わせて取り組むことで、よりダイナミックで革新的かつ持続可能な経済関係を築き上げ、ペルーと日本の双方に具体的な利益をもたらすことができるものと私は確信しています。当館は、皆様からのあらゆるご相談に対応し、ペルーにおける投資計画の推進を支援するため、全面的にご協力させていただきます。

東京にて、2025年



安永竜夫 日本ペルー経済委員会委員長メッセージ

在日ペルー大使館による2025年版投資ガイドを公表に心から敬意を表します。

日本ペルー経済委員会は、CEPE-JA-Peruとともに、両国経済界の関係強化および友好・相互理解の促進に取り組んでいます。

両委員会は、1993年以降、定期的に日本ペルー経済協議会を開催し、政府に対して様々な提言を行い、「日・ペルー投資協定」、「日・ペルー経済連携協定」、「日・ペルー租税条約」、「CPTPP」のペルーでの発効などが実現しました。これら枠組みは、本投資ガイドに記載の通り、ペルーにおいて、ルールに基づく貿易・投資体制が確立し、ビジネス上の予見可能性を一層高めることに繋がりました。両国政

府にはこの場を借りて改めて厚く御礼申し上げます。

さて、本年は、大阪・関西万博の機会を捉え、ボルアルテ大統領を団長とする官民大型ミッションが来日され、第16回日本ペルー経済協議会を8月7日、都内で開催しました。大統領のほか、ペレス＝レジェス経済財務大臣、レオン通商観光大臣も登壇のうえ力強いメッセージを披露されるなど、昨年10月開催の第15回協議会以降、わずか10ヶ月の間に両国関係が新たな段階に進展していることを確認しました。会議では食品、農業、インフラ、鉱業、物流、人的交流の個別分野における現状、展望、課題も議論されました。

共同声明では、昨年11月に石破総理とボルアルテ大統領が「戦略的パートナーシップ強化のためのロードマップ」を署名して以降、両国政府が各層で多くの分野について対話を行っている点や、本年7月から相互に渡航要件を緩和したことへの賛辞とともに、鉱業分野におけるペルーのビジネス環境の一層の改善、良質なインフラ案件形成のため両国間での技術のマッチングへの期待等が採択されました。

ペルー代表団の本邦滞在中には、ペルー政府主催の投資セミナーならびに大統領訪日を記念するレセプションが盛大に催されるとともに、ペルー日本経済委員会ペレス委員長による、大統領と両国経済界との朝食懇談会が主宰されました。これら一連の行事においては、既存のビジネス分野にとどまらず、新たなビジネス・事業の展開・

拡大や、さらなる人的交流促進の可能性などについて活発な意見交換が行われ、実り多い場となりました。

なお、大阪・関西万博における「ペルー・ナショナルデー」祝賀式典に、私ども日本ペルー経済委員会関係者も招待を賜わり、悠久の歴史を有するペルーの文化、芸術、伝統、さらには豊かな食文化に触れる貴重な機会を得ましたことを、改めて深甚なる謝意を表します。

結びに、本書を通じて、ペルーが優れた事業環境を有し、数多のビジネス機会に満ち溢れていることをご理解いただければ幸いに存じます。皆様のペルーに対する関心が一層高まり、両国間の経済交流がより力強く拡大していくことを心より期待申し上げますとともに、日本ペルー経済委員会は、皆様のビジネスの展開を力強く支援してまいりますので、未加入の皆様におかれましては、この機会にぜひご参画をご検討ください。

東京にて、2025年



芹生太郎
米州開発銀行アジア
事務所長のメッセージ

ペルー共和国は、2000年以降、中南米地域における経済的および社会的成功例として注目されています。2000年から2019年にかけて、ペルー経済は毎年約5%の成長を遂げ、この間、一人当たりGDPは1,956米ドルから7,028米ドルへと増加し、世界銀行の分類において上位中所得国となりました。このような目覚ましい発展は、鉱物、エネルギー資源、農業などの計画的な開発に加え、1990年代に行われた様々な改革がマクロ経済運営の強固な制度枠組と堅実な行政運営の基礎を築いたためといえます。具体的には、高度な独立性が保された中央銀行による長期にわたるインフレ抑制に加え、財政赤字の対GDPの目標設定により政府債務残高の対GDP比は低く抑えられ、GDPの30%に上る外貨準備を維持しています。

近年、コロナ禍の影響と直後のエルニ

ーニョによる災害の多発及び農業被害が経済成長の下押し圧力となり、同時に社会的緊張の高まりや度重なる政権交代を経験することになりましたが、そのような中においても堅実な経済運営とマクロ経済の健全性は一貫して堅持されており、今後10年程度の中期を見通した場合にも、信用格付け機関による投資適格（Investment Grade）の維持の重要性やOECDへの加盟申請手続きが行われていることから、マクロ経済運営及び規制・制度の効率化に向けた着実な取組が見込まれています。

加えて、外国企業のビジネス環境の整備という観点でも、対外直接投資に対する契約や財産権に関する内国民待遇を法制上保障しているほか、特にPPPプロジェクトについては、政府のインフラ整備戦略により中長期の整備計画が示され、これに基づき、民間投資促進庁（Proinversion）が大規模プロジェクトの実施事業者の選定及び事業管理を一元的に行うことで、法令及び契約に従った履行が確保されています。このような点を踏まえ、IDB（米州開発銀行）が行っているPPP事業環境の国別評価（Infrascope 2023/2024）において、ペルーはチリ・ブラジルと並ぶ上位5か国の一角を占め、なかでもプロジェクトの経済的・社会的持続可能性に関する指標においては、最上位の評価を行っております。

同時に、過去10年の間に、陸上運送に不可欠な道路網の整備及び質的改善、国際貿易港の建設、主要国際空港の拡張、通信ネットワークの整備などビジネスに不可欠なハード・インフラの整備も大幅に進展しており、グローバルなビジネス展開の拠点としての優位性は格段に高まっ

ていると考えられます。

最後に、ペルー共和国には10万人規模の日系人コミュニティが存在しており、多くの日本人移民とその子孫がペルー社会に根付き、とりわけ農業、商業、中小企業経営などで活躍しているほか、多数の医師、エンジニア、その他の専門家を輩出しています。このような日系人のネットワークが日本企業の活動を支えるという同国ならではの有利な事業環境もあると考えています。

東京にて、2025年



目次

ペルーの発展の波に乗りたい理由.....	16
中南米地域へのインフラ海外展開に関する官民連携プラットフォーム (PLACIDA)	18
ペルー共和国エネルギー鉱山省『2025年 鉱業探鉱プロジェクト・ポートフォリオ』（抜粋）	24
プロインベルシオン『2026年 PPP プロジェクト』（抜粋）.....	32
ペルーにおける主要な規制機関および投資促進機関.....	89



CONTENTS

Reasons for Wanting to Ride the Wave of Peru's Development	16
Public-Private Platform of Latin American and the Caribbean Infrastructure Development Alliance (PLACIDA).....	18
2025 Mining Exploration Project Portfolio, Ministry of Energy and Mines of Peru. (Extract)	24
2026 PPP Projects Portfolio - Proinversion (Extract).....	32
Main regulatory and investment promotion entities in Peru.....	89



ペルーの発展の波に乗りたい理由



ジェットロ・リマ事務所 所長 石田達也

太平洋に面するペルーは、世界的に波が良いことで知られ、サーフィン世界選手権の会場に何度も選ばれています。プロ・サーファーのみならず、欧米や豪州から一般のサーファーもたくさん訪れています。日本の海では数時間に1回くるかどうかという良い波が20分ごとに来る場合もあり、日本企業関係者も楽しんでいきます。

本ガイドでは財政の安定性、中央銀行の独立性などを基盤とする堅調なマクロ経済状況や投資プロジェクトが豊富に掲載されています。実際に投資する場合、駐在員の派遣も含め対応を検討する必要があります。ここではペルーの発展の波に乗り遅れないよう、駐在員配置という視点も含めてペルーを見ていきましょう。

世界情勢の変化は常に起こっていますが、特に近年は変化のスピードが速くなっています。そのため、企業は予測可能性が高く、伸びしろのある新たな市場を求めます。

ペルーが日ペルー経済連携協定 (EPA) や環太平洋パートナーシップに関する包括的および先進的な協定 (CPTPP) により、日本を含む各国と自由貿易の推進にコミットしていることは日本企業にとり大きな安心材料となります。一人あたりのGDP (名目) は8,485ドル (IMF2025年4月) となり、いよいよ8千ドル台に突入しました。中間層が増え、教育、医療・美容、建設など各分野で市場の近代化と拡大が期待できる段階に入ったと言えます。

2026年は5年ごとに実施される総選挙の年です。2026年4月に投票が行われ、7月に政権交代が見込まれています。議会では二院制が復活します。1993年からこれまで30年以上にわたり一院制でした。二院制になることで国民や企業の声を反映した熟議による議会の運営が期待されます。

執筆時の2025年9月現在、投票まで半年余りですが、企業経営者のビジネス環境に対する見方は5年前と比べ前向きになっています。ペルー中銀が企業経営者を対象に今後12カ月間の経営環境見通しアンケートを実施し、その集計を基に公表している企業経営期待指数について、執筆時点で公表されているデータでジェットロが調査したところ、2025年1月~7月の平均値は58.09でした。前回選挙の前年にあたる2020年同期の平均値は47.83です。2020年は世界で新型コロナが猛威を振るった

ことも考慮する必要がありますが、10ポイント以上の開きがあり、約6割の経営者がペルーの経営環境をポジティブに捉えています。

駐在員や日本からの出張者にとり、アクセスは大事な要素です。ペルーの首都にあるリマ空港は2025年6月、新ターミナルの供用を開始しました。面積は旧ターミナルの約3倍となり、設備は刷新されました。搭乗前の荷物検査でPCや携帯電話をカバンから取り出す必要はなくなり、とてもスムーズになりました。世界遺産のマチュピチュ遺跡やナスカの地上絵へのアクセスも大切ですが、日本列島が47個すっぽり入る広大な南米大陸では、国際線の直行便の有無も重要なポイントです。リマ空港からは米国の主要都市、メキシコ、ブラジルへの直行便に加え、パラグアイ、エクアドル、ボリビアなどの近隣諸国への直行便もあり、痒い所に手が届くのがリマ空港の強みと言えます。広い地域ですから、直行便の有無で時間の使い方と体の負荷が大きく変わります。

南米でブラジルと並ぶ圧倒的な親日感も、仕事をする上で大きな支えとなります。

2025年8月にディナ・ボルアルテ大統領が訪日し、投資誘致と豊かな観光資源のアピールに取り組みました。外務大臣、経済財務大臣、通商観光大臣など6名の閣僚も同行し、「日本でペルーの閣僚会議ができる」という冗談も生まれるほどで、

日本に対する期待の強さが伝わってきます。

ペルーには20万人とも言われる日系人コミュニティが存在します。地球の裏側でも沖縄の三線(さんしん)の音やエイサーを楽しむことができます。日系人の方々は苦勞をされながらもペルーの発展のために様々な分野で活躍しています。ボルアルテ大統領の訪日中は、日系人のエドゥアルド・アラナ首相がペルー政府の留守番役をされていました。

親日感はペルーの将来を担う人材育成や地域づくりにもつながっています。日本では工場管理などでおなじみの「5S活動」が、ペルーでは企業のみならず、日系人学校(幼稚園・小・中)で導入されています。児童生徒たちがペルーは珍しく自分たちで教室などの清掃を行ない、未就学児もゴミの分別処理ができます。5S活動を学んだ子どもは、家庭に持ち帰り、その親御さんも子供から整理整頓などの大切さを学び始め、子供を含めた家事分担など家族の生活行動に変化が起きるそうです。その変化が学校周辺の地域コミュニティに浸透し、日本発5S活動が教育や地域づくりにも一役買っており、産業人材育成のベースとなることが期待されます。

最後になりましたが、本ガイドの読者の皆様がペルー・ビジネスへのご関心が高まることを期待しております。



中南米地域へのインフラ海外展開に関する 官民連携プラットフォーム（PLACIDA）



国土交通省 総合政策局
海外プロジェクト推進課
国際建設管理官
館 健一郎

ペルーを含む中南米地域は、約6.6億人の人口と約7兆ドルの域内総生産を抱えた巨大な成長市場であり、旺盛なインフラ需要は日本のインフラ海外展開にとって極めて魅力的といえます。加えて、世界の日系人の約6割を占める約310万人からなる日系社会が存在しており、100年以上に及ぶ現地社会への貢献を通じて、伝統的な親日感情が醸成されてきました。

ペルーに目を向けると、投資促進庁（ProInversion）を通じた対外的にも開かれた形でのPPPの推進や、GtoGによる外国企業のPMOとしての参加等、外国企業

にとって参入可能性の高いインフラ市場といえるでしょう。

しかしながら、旺盛なインフラ需要に対して、我が国のインフラ関連企業の展開については、物理的な距離が遠いこと、非英語圏が多いという言語環境に加え、事業実施・継続上の諸リスクが高いという認識が強いことから、十分とはいえない状況にあります。

一般社団法人海外建設協会（OCAJI）の調査によると、2024年の日本の建設企業の全世界での受注実績は、アジア地域が1兆4,264億円（世界全体の受注実績の55.3%）に対して、中南米地域は401億円（世界全体の受注実績1.6%）と限定的です。

加えて、日本企業にとってのハードルを高くしているのは、中南米地域はいわゆるODAの「卒業国」が多く、JICAのODA事業の受注・施工を通じた従来型の日本のインフラ企業の事業モデルが適用できる機会が限定的になってきている点です。PPPなどの民間資金の活用や、運営・維持管理（O&M）等、多様なアプローチでの事業への参画を目指していくことが求められます。そのような新たなアプローチに順応するためには、地元企業あるいは第三国企業との連携が不可欠であり、長期的視野で地域に根付いて活動していく必要がありますが、それは日本企業にとっては新たなチャレンジでもあります。

日本政府は、世界の旺盛なインフラ需要を取り込み、我が国の持続的成長につなげるため、昨年12月に「インフラシステム海外展開戦略2030」を策定し、我が国企業が2030年に45兆円のインフラシステ

ムを受注するという目標を立てました。その戦略を受けた国土交通省インフラシステム海外展開行動計画（令和7年版）では、中南米地域での取組方針として、「中南米地域は、食料や鉱物資源を含む経済安全保障の観点から極めて重要な地域である。（中略）このため、我が国企業の進出・投資拡大を後押しするための取組について推進していく。特に、現地での事業に精通した第三国パートナー企業や日系人社会との連携のような、我が国企業がゼロから進出できるようにするための後押しが必要である。」としています。

このような問題意識の下、官民が連携して中南米地域に係る現地情勢や様々な施策等の情報共有や発信を行い、中南米地域へのインフラ企業の展開を支援す

るため、外務省、経済産業省、国土交通省の3省が連携して「中南米地域へのインフラ海外展開に関する官民連携プラットフォーム」（PLACIDA）を設立しました。その概要を図-1に示します。

今年7月17日に開催された設立会合には、3省の局長級その他、各構成員の代表者、駐日大使館、各種業界団体を通じた民間企業等、約80者から約130名が参加しました（写真-1）。

現状の課題分析に基づき、PLACIDAは以下の要点を踏まえた「ハンズオンな支援」をしてきます。

- 中南米地域への展開の目標明確化と



共有

- 長期的視野での機運醸成と環境整備
- バックアップ体制の整備 (全ての関係機関が参加し、それぞれが有する支援ツールを連携して提供)
- 意欲ある者へのきめ細かい支援 (情報提供、実効性のある支援ツールの提供を通じたリスクの軽減、政府とのコネクション作り、地元企業や第三国企業とのマッチング)
- 旧来型の「請負型」に限定せず、案件形成から資金調達、資機材やサービス提供、O&Mまで多様なアプローチを対象に支援。
- 現在散在している資源をつなげる場の創出 (人的ネットワーク形成等)。
- 先方政府との連携を通じた優良案件

の発掘、形成。

今後、目標を絞ったワーキンググループ (WG) を立ち上げ、具体的な展開支援を進めていきます。

最後になりますが、筆者は今年3月にペルー・リマ市を訪問する機会を得ました。経済成長の勢いと高いインフラ需要を実感するとともに、独特の自然環境と奥深い文化、食文化も含めた日系人の影響等に魅了されました。PLACIDAの取組が、ペルーを始め、中南米地域における日本企業の展開に着実につながり、日本との関係強化が一層進むことを期待します。



中南米地域へのインフラ海外展開に関する 官民連携プラットフォーム（PLACIDA）

<課題・背景>

令和7年7月17日

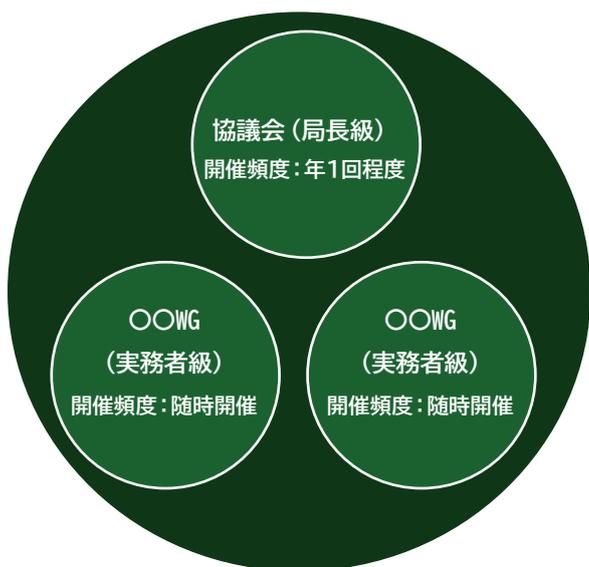
- ・中南米地域は、比較的インフラ需要が旺盛であるが、一部を除き、必ずしも日本企業の関心が高いわけではない
- ・中南米地域におけるPPP案件の増加等、変化しつつある域内のインフラ需要に対して適切な対応が必要

<対応方針>

新たに「中南米地域へのインフラ海外展開に関する官民連携プラットフォーム」を設立し以下(1)～(3)等を推進

- (1) 日本企業の中南米地域への進出に向けた機運醸成
- (2) 日本企業の進出を支援する実用的な現地情報、支援ツールの共有・提供
- (3) 日本企業と現地企業間のマッチング

「中南米地域へのインフラ海外展開に関する 官民連携プラットフォーム」イメージ



協議会 (局長級)

開催頻度: 年1回程度

役割: 中南米へのインフラ展開に向けた機運醸成
国としてのバックアップ体制の確保

構成員: 外務省、経産省、国交省、JICA、JETRO、
JBIC、NEXI、JOIN、IDBアジア事務所、業界団

体

事務局: 外務省、経産省、国交省

各種WG (実務者級)

開催頻度: 必要に応じて随時開催

役割: 現地の課題・情勢等の情報共有・提供
実効性のある支援ツールの情報共有・提供
相手国政府との連携促進
地元企業や第三国企業とのマッチング

等

構成員: 協議会構成員と同様 (実務者級)

事務局: 外務省、経産省、国交省

～要人往来等の機会も積極的に活用することを目指す～

Public-Private Platform of Latin American and the Caribbean Infrastructure Development Alliance (PLACIDA)

<Background, challenges>

17 July 2025

Although infrastructure demand is relatively high in the Latin American and the Caribbean region, Japanese firms are not particularly interested in the region, with some exceptions.

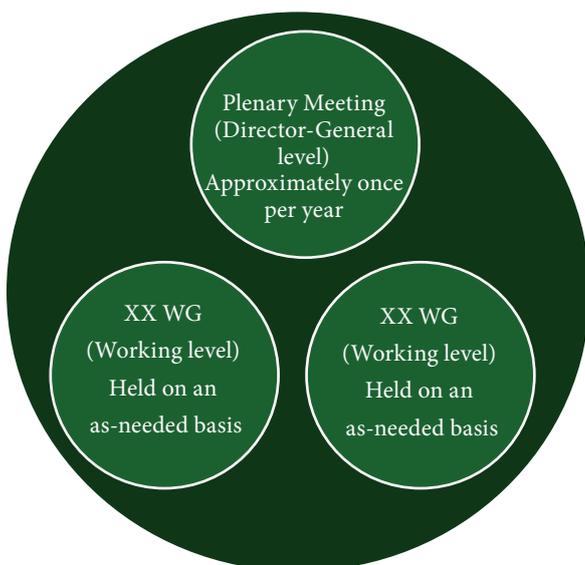
Japan needs to respond to evolving infrastructure needs in the LAC region appropriately, such as the increase in PPP projects.

<Coping strategy>

“Public-Private Platform of Latin American and the Caribbean Infrastructure Development Alliance (PLACIDA)” will be newly established to promote the following (1) to (3):

- (1) Build momentum for Japanese companies to advance into the region;
- (2) Sharing and providing practical local information and support tools to help Japanese companies expand into the region; and
- (3) Matching between Japanese companies and local companies.

Conceptual diagram of PLACIDA



Plenary Meeting (Director-General level)

Frequency: Approximately once per year

Purpose: Build momentum for entry into Latin American infrastructure business in LAC region
Prepare a national back-up framework

Members: MOFA, METI, MLIT, JICA, JETRO, JBIC, NEXI,

JOIN, IDB office in Asia,
and industry associations

Secretariat: MOFA, METI, MLIT

Working Groups (Working level)

Frequency: Held on an as-needed basis

Purpose: Sharing and providing information on local issues and conditions; Sharing and providing information on effective support tools; Promoting collaboration with partner governments; Matching with local and third-country companies, etc.

Members: Working level from each member

Secretariat: MOFA, METI, MLIT

PLACIDA will aim to actively utilize opportunities such as the VIPs visits.



参考：2025 MINING EXPLORATION PROJECT PORTFOLIO, MINISTRY OF ENERGY AND MINES OF PERU (EXTRACT)

INVESTMENTS BY PROJECT LOCATION

BY REGION

This section analyzes the investments by project location, which are distributed in 17 departments throughout the Peruvian territory. Compared to the previous edition (March 2024), **Ica** ranked **first place** nationwide, positioning itself as the leading department, representing 29.7% of the total investment amount with 5 projects (US\$ 308.7 million). This rise was due to the inclusion in this edition of the Portfolio of the 8th MEIAsd of the Marcobre copper project of Marcobre S.A.C., which contemplates an investment of over US\$ 285.9 million.

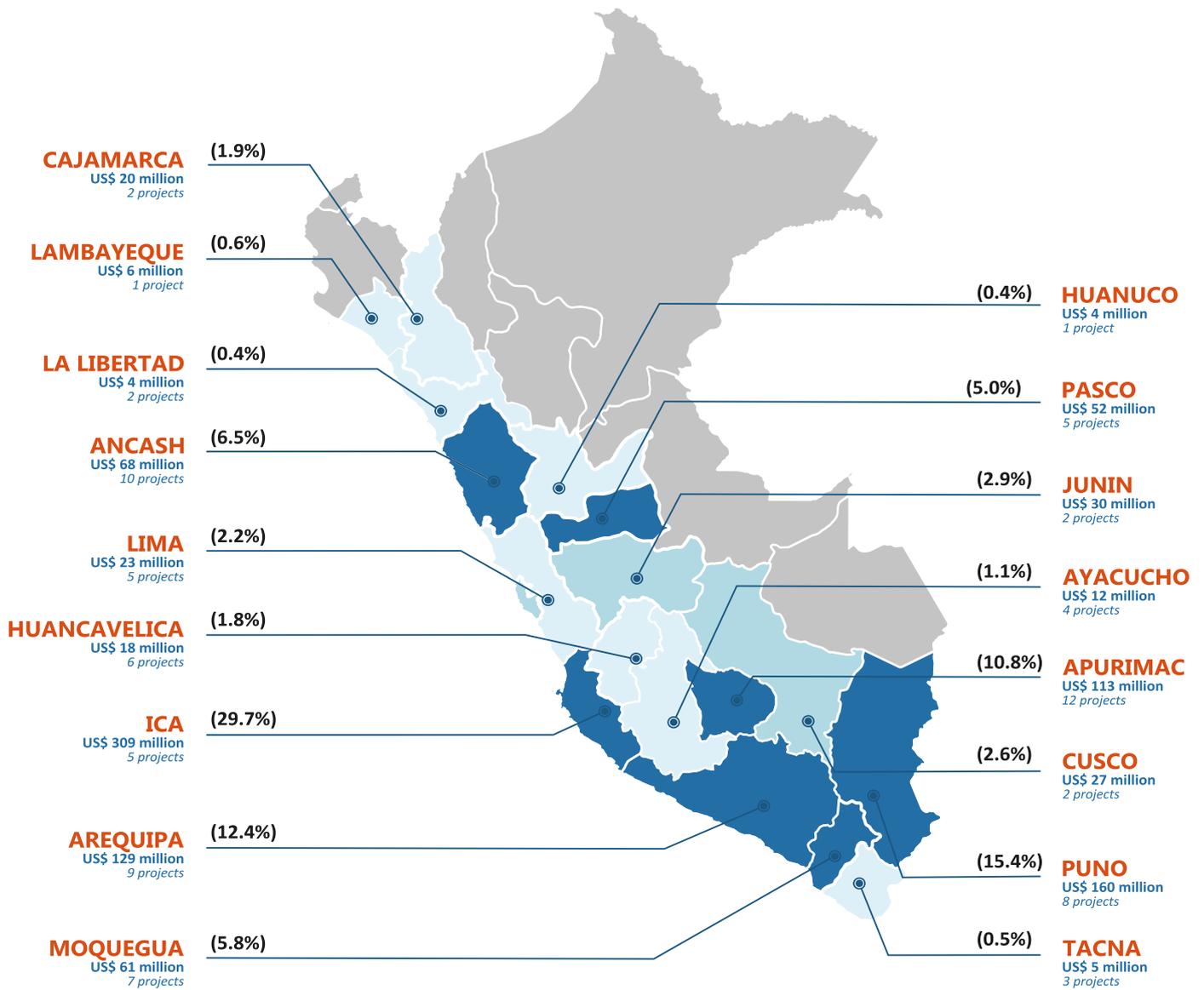
Puno ranks **second place**, with 8 projects that accumulate an investment of US\$ 159.7 million, equivalent to 15.4% of the total amount. This performance is evidence of the growing interest in the exploration of strategic minerals in the department, consolidating its relevance in the country's mining development. Among the most representative projects are the 2nd MEIAsd of Quenamari with US\$ 104.5 million, and the 1st MDIA of Picha with US\$ 20.0 million, which lead the investment in the area. This economic boost reinforces Puno's strategic role in the expansion of the mining sector in the southern highlands of Peru, enhancing its attractiveness for future exploration and strengthening its impact on the national industry.

The department of **Arequipa** ranks **third place**, concentrating 12.4% of the total investment with US\$ 128.6 million in 9 projects. In this department, Tambomayo, with its 4th MEIAsd, leads the portfolio with US\$ 104.6 million; while other projects such as Oasis (US\$ 8.5 million) with its DIA, and Willay (US\$ 4.7 million) with its FTA, reinforce the importance of exploration in this area.

Apurimac, with an investment of US\$ 112.6 million (10.8% of the total amount), ranks **fourth place**, reaffirming its role as a key department in the Peruvian mining exploration. The department houses 12 projects, including the 3rd MEIAsd of Haqira (US\$ 22.5 million); the EIAsd of Antilla, and the 3rd MEIAsd of Cotabambas, both with US\$ 21 million. The sustained growth of investment in this area demonstrates the interest in strengthening its mining competitiveness and taking advantage of its geological wealth.

Finally, the remaining investments are distributed in Ancash, Moquegua, Pasco, Junin, Cusco, Lima, Cajamarca, Huancavelica, Ayacucho, Lambayeque, Tacna, La Libertad and Huanuco, reaching a total of US\$ 330 million, which represents 31.7 % of total investment with 50 projects. This diversification of investments reaffirms the commitment to the expansion and sustainability of mining activity in the country.

Chart N° 08: Investment in mine exploration projects by department





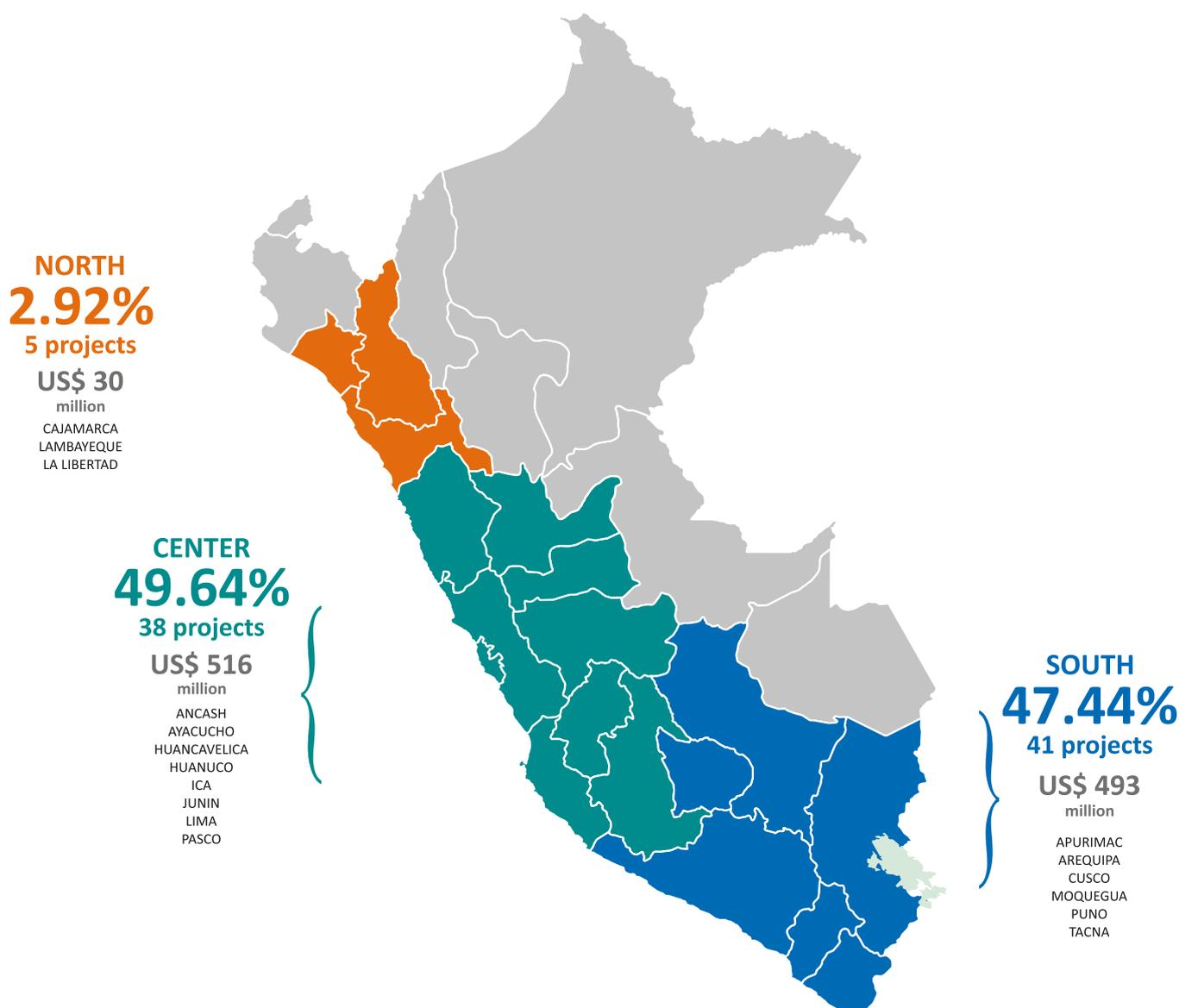
BY MACRO-REGION

The mining exploration project portfolio in Peru is distributed mainly in three macro-regions: Central, North and South, with a total investment of US\$ 1039 million. The **Central macro-region** concentrates the **largest investment**, amounting to US\$ 516 million, which represents 49.64% of the total. This macro-region includes 38 mining exploration projects, including the 8th MEIAsd of Marcobre with US\$ 285.9 million, the 2nd MEIAsd of Romina 2 with US\$ 28.7 million, the DIA of Quicay II with US\$ 28.5 million, the 1st MEIAsd of Soledad with US\$ 23.3 million, and the EIAAsd of C.P.S. N° 1 with US\$ 10.7 million. The presence of these projects consolidates this macro-region as the main destination for investment in mining exploration in the country.

On the other hand, the **Southern macro-region** concentrates an investment of US\$ 493 million, equivalent to 47.44% of the total, with 41 projects, ranking **second place**. The most important projects include the entry of the 4th MEIAsd of Tambomayo with US\$ 104.6 million, the 2nd MEIAsd of Quenamari with US\$ 104.5 million, the 4th MEIAsd of San Gabriel with US\$ 39.3 million, the 3rd MEIAsd of Haquira with US\$ 22.5 million and the EIAAsd of Antilla with US\$ 21.0 million. This macro-region, like the Central macro-region, plays a key role in promoting mining in Peru.

Finally, the **Northern macro-region** ranked **third**, with US\$ 30 million, representing 2.92% of the total. In this area, 5 exploration projects are contemplated; among them, the entry of the 6th MEIAsd of El Galeno with US\$ 10.0 million, the 10th MEIAsd of La Zanja with US\$ 10.0 million, and the DIA of Cañariaco with US\$ 5.9 million. Despite the lower investment compared to the other macro-regions, these projects continue to contribute to mining development in the northern part of the country.

Chart N° 09: Investment in mine exploration projects by macro-region



INVESTMENTS BY MINERAL TYPE

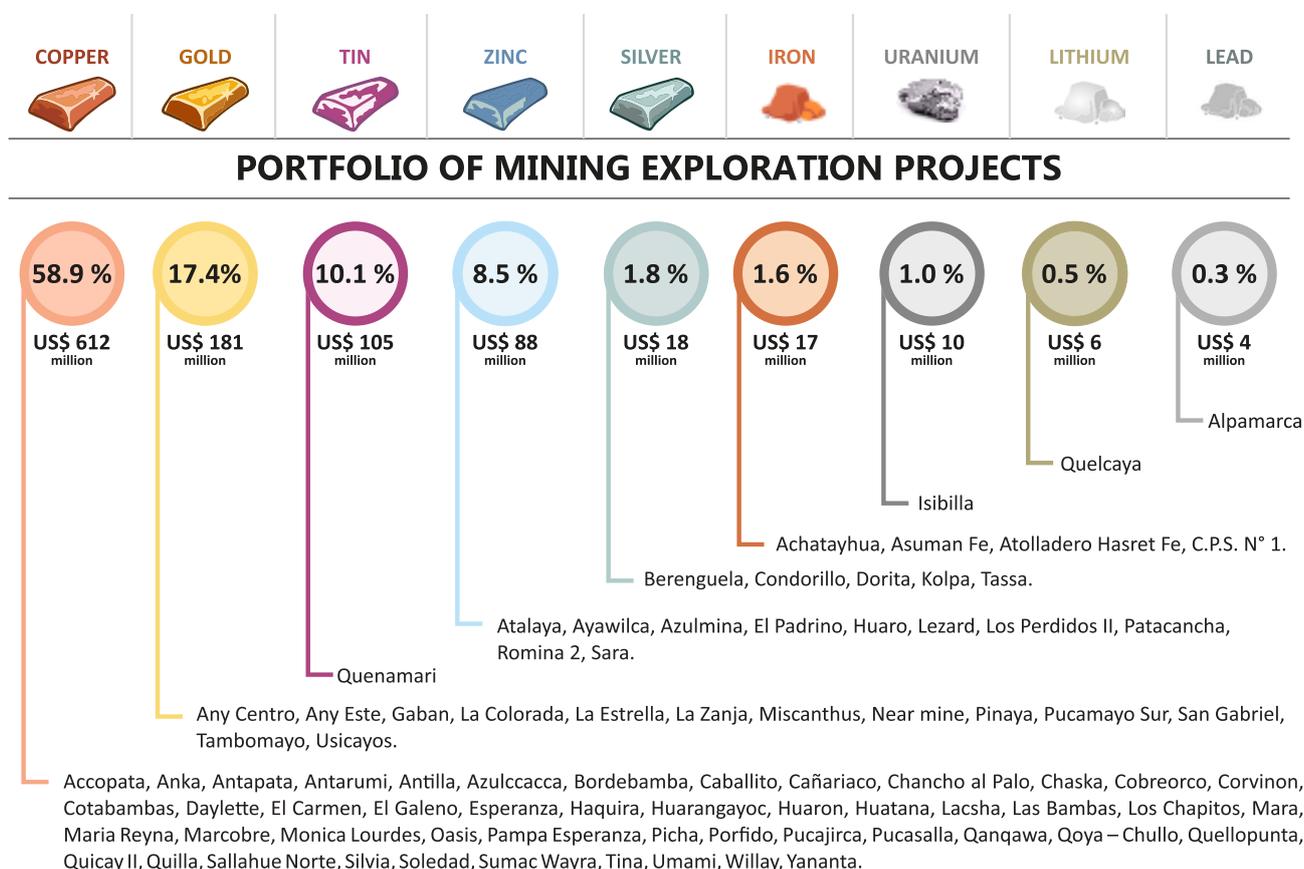
As regards the ore to be explored, the projects in the Portfolio include the exploration of nine (9) minerals, including copper, gold, tin, zinc, silver, iron, uranium, nickel, lithium and lead. The **copper** projects **are at the top of the list** with 48 projects and a combined investment of US\$ 612 million, representing 58.9% of the total amount of the exploration Portfolio. The most outstanding projects for their investment amount are the 8th MEIAsd of Marcobre (US\$ 286 million) in Ica, the DIA of Quicay II (US\$ 29 million) in Pasco and the 1st MEIAsd of Soledad (US\$ 23 million) in Ancash.

The **gold** projects rank **second place**, with 13 projects and a total investment of US\$ 181 million, accounting for 17.4% of the Exploration Portfolio. The outstanding projects for their investment amount are: 4th MEIAsd of Tambomayo (US\$ 105 million) in Arequipa and the 4th MEIAsd of San Gabriel (US\$ 39 million) in Moquegua; as well as, the 10th MEIAsd of La Zanja (US\$ 10 million) in Cajamarca.

A **tin** project ranks **third place**, the 2nd MEIAsd of Quenamari in Puno with an investment of US\$ 105 million and accounting for 10.1% of the overall amount of the exploration portfolio.

Zinc projects rank **fourth place** accounting for 8.5% and a combined investment of US\$ 88 million concentrated in 10 projects. In this regard, the most relevant projects for their investment amount in this group are: the 2nd MEIAsd of Romina 2 (US\$ 29 million) in Junin, the MEIAsd of Ayawilca (US\$ 10 million) in Pasco and the 4th MEIAsd of Atalaya (US\$ 9 million) in Ancash. Finally, silver, iron, uranium, lithium and lead projects together represent 5.2% of the overall investment in this edition of the Portfolio, with 12 projects and a total investment of US\$ 54 million.

Chart 10: Investment in mine exploration projects by main ore to be extracted



INVESTMENTS BY TYPE OF EXPLORATION

According to the mining exploration type, the projects are classified as greenfield or brownfield. Regarding greenfield mining exploration projects, they are those that, in general, are not linked to nearby Mining Units, so they are usually located in a new geographic space and/or in areas with a history of early exploration. Brownfield projects are close to and/or linked to Mining Units of the same mining owner, with the purpose of exploring and developing new mining areas through the identification of mineral resources of technical and economic feasibility.

In this regard, the Mining Exploration Project Portfolio, 2025 edition, includes 75 projects, of which 64 are greenfield projects, with a combined investment of US\$ 418 million, representing 40.3% of the total investment in the Portfolio. Among the most outstanding projects due to their investment amount are the 4th MEIAsd of San Gabriel (US\$ 39.3 million) in Moquegua and the DIA of Quicay II (US\$ 28.5 million) in Pasco.

Regarding the brownfield projects, 20 projects are included in this portfolio, with a combined investment of US\$ 621 million, which represents 59.7% of the total investment in the Portfolio. Among the most notable projects in terms of investment amount are the 8th MEIAsd of Marcobre (US\$ 286 million) in the department of Ica and the 4th MEIAsd of Tambomayo (US\$ 105 million) located in Arequipa.

Chart N° 11: Investment in mining exploration projects by exploration type



- Accopata
- Achatayhua
- Anka
- Antapata
- Antarumi
- Antilla
- Any Centro
- Any Este
- Asuman Fe
- Atolladero Hasret Fe
- Ayawilca
- Azulmina
- Berenguela
- Cañariaco
- Chancho al Palo
- Chaska
- Cobreorco
- Corvinon
- Cotabambas
- Daylette
- Dorita
- El Carmen

- El Galeno
- El Padrino
- Esperanza
- Gaban
- Haquira
- Huarangayoc
- Huaró
- Huatana
- Isibilla
- La Colorada
- La Estrella
- Lacsha
- Lezard
- Los Chapitos
- Los Perdidos II
- Mara
- Miscanthus
- Monica Lourdes
- Oasis
- Pampa Esperanza
- Patacancha
- Picha

- Pinaya
- Porfido
- Pucajirca
- Pucamayo Sur
- Qanqawa
- Qoya - Chullo
- Quelcaya
- Quellopunta
- Quicay II
- Quilla
- San Gabriel
- Silvia
- Soledad
- Sumac Wayra
- Tassa
- Tina
- Umami
- Usicayos
- Willay
- Yananta

- Alpamarca
- Atalaya
- Azulccacca
- Bordebamba
- C.P.S. N° 1
- Caballito
- Condorillo
- Huaron
- Kolpa
- La Zanja
- Las Bambas
- Marcobre
- María Reyna
- Near mine
- Pucasalla
- Quenamari
- Romina 2
- Sallahue Norte
- Sara
- Tambomayo

INVESTMENTS BY COUNTRY OF ORIGIN OF MAIN INVESTOR

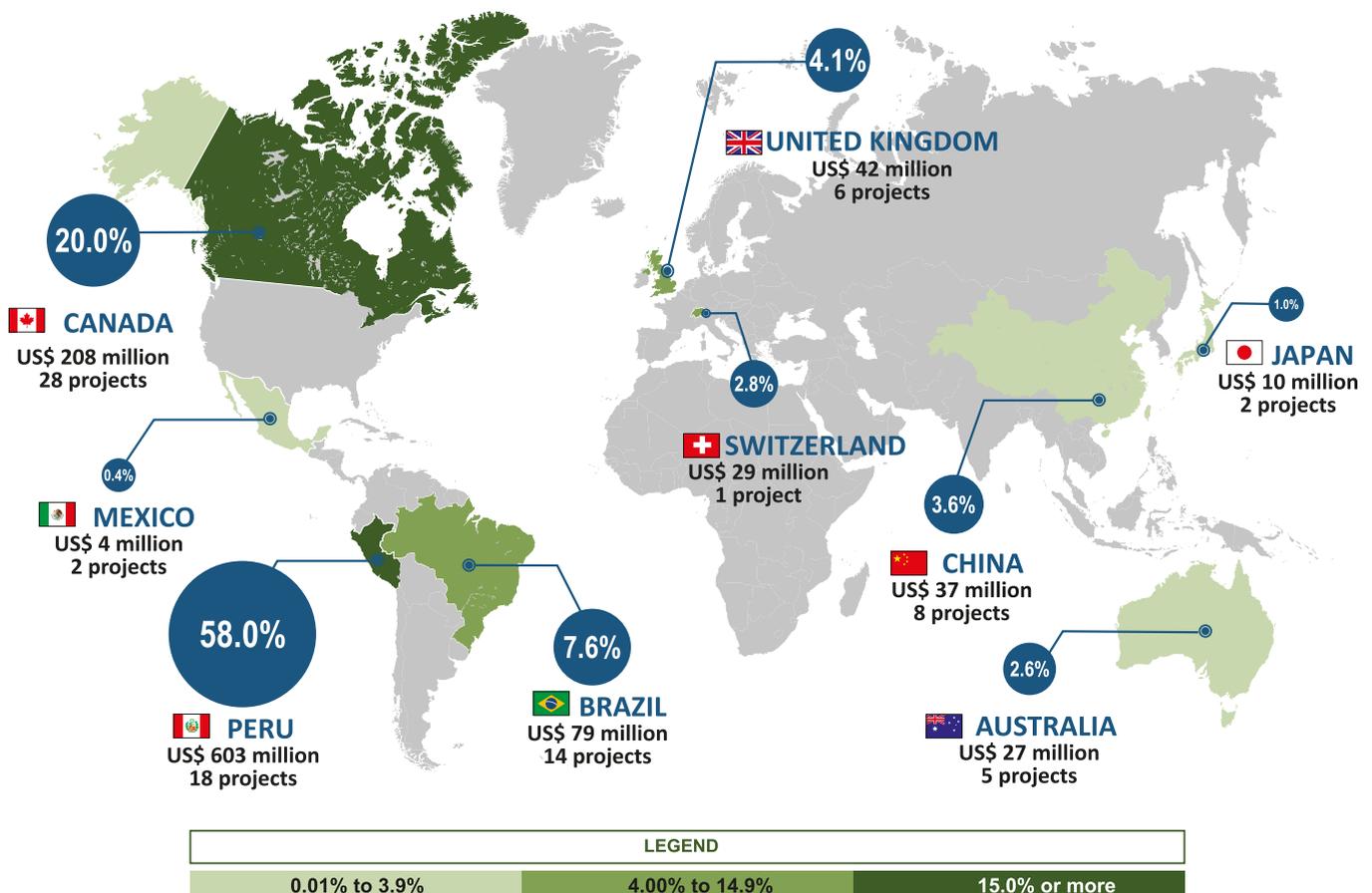
Regarding investments by country of origin of main investor, the funds for the projects in the current Portfolio come from 9 countries distributed in 4 continents (America, Europe, Asia and Oceania).

The investments from Canada rank second place, with 28 projects in the exploration portfolio, consolidating its position as the country with the largest number of projects in this portfolio in terms of investment origin, representing 20.0 % of the overall amount invested in the Portfolio and reaching the combined figure of US\$ 208 million.

Investments from **Brazil rank third place**, with 14 projects in the exploration portfolio, accounting for 7.6 % and an amount of US\$ 79 million. It should be noted that these three countries together represent 85.6 % of the overall amount of the Exploration Portfolio.

Meanwhile, investments from the **United Kingdom, China, Switzerland, Australia, Japan and Mexico** add up to US\$ 149 million and reflect a 14.4 % participation in 24 exploration projects.

Chart N° 12: Investment in mine exploration projects by country of origin of the main investor

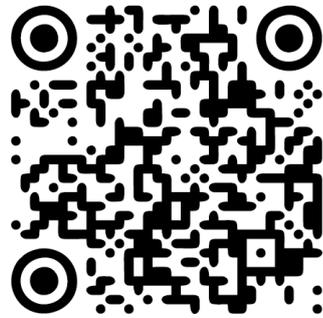




2025

MINING EXPLORATION
PROJECT PORTFOLIO

Download the digital version





2026 PPP PROJECTS - PROINVERSION (EXTRACT)

Private Public Partnership



HEALTH

NEW CENTRAL MILITARY HOSPITAL

Estimated date
of declaration
of interest

IV Quarter

2025

FINAL TRANSACTION



The project consists of the design, construction, equipment, operation, and maintenance of the New Central Military Hospital, which will replace the current infrastructure (inaugurated in 1958) with a modern, safe, and state-of-the-art facility. Its purpose is to guarantee comprehensive and specialized healthcare for more than 300,000 beneficiaries of the Peruvian Army and their dependents, through a high-complexity hospital located on Av. Brasil, in Jesus Maria (Lima).

One of the most notable features is the incorporation of international sustainability and energy efficiency standards, with certifications such as LEED 2009 and aspirations toward LEED 2021, positioning the hospital as a benchmark in sustainable healthcare infrastructure.



During construction, a temporary contingency facility will be implemented to ensure the continuity of healthcare services and guarantee uninterrupted medical care for military personnel and their families.

The New Central Military Hospital will offer both specialized clinical services or “green coat” (hemodialysis, laboratory, imaging diagnostics, sterilization) and support services or “gray coat” (maintenance of infrastructure and equipment, catering, laundry, cleaning, integral security, information and communication technologies, warehouse management, medical records, among others). This ensures the integral operability of the hospital, high-quality patient care, and the sustainability of its services throughout the concession period.

Concession Period

- 30 years (5 years for design and construction + 25 years for operation and maintenance)

Granting Authority

- Ministry of Defense – Peruvian Army



Investment amount:

US\$ 726.11 million





TOURISM

CHOQUEQUIRAO CABLE CAR

Estimated date
of declaration
of interest

To be decided

FORMULATION



The project consists of the design, financing, construction, operation, and maintenance of a cable car system that will significantly improve access to the Choquequirao archaeological complex, known as the “sacred sister of Machu Picchu” and one of Peru’s most emblematic tourist destinations.

The project will reduce the access time from a two-day hike to less than one hour, providing a significant boost to tourism and the local economy in the regions of Cusco and Apurimac.



The layout includes two main components:

- Northern Zone (Cusco): construction of a 9.4 km tourist road from Yanama to San Juan and a cable car in two sections: San Juan–Maizal (2.7 km) and Maizal–Choquequirao (3.7 km).
- Southern Zone (Apurimac): construction of a 1.3 km tourist road from the road head to Kiuñalla and a 4.2 km cable car from Kiuñalla to Choquequirao.



Travel time:

- Reduced from 2 days to <1 hour

Tourism growth:

- From 10,000 to 150,000 visitors per year

Regional development:

- Boost to local economies and employment in Cusco and Apurimac

Cultural positioning:

- Choquequirao to become a new Peruvian tourism icon complementary to Machu Picchu

Concession Period

- 25 years (5 years for design and construction + 20 years for operation and maintenance)

Granting Authority

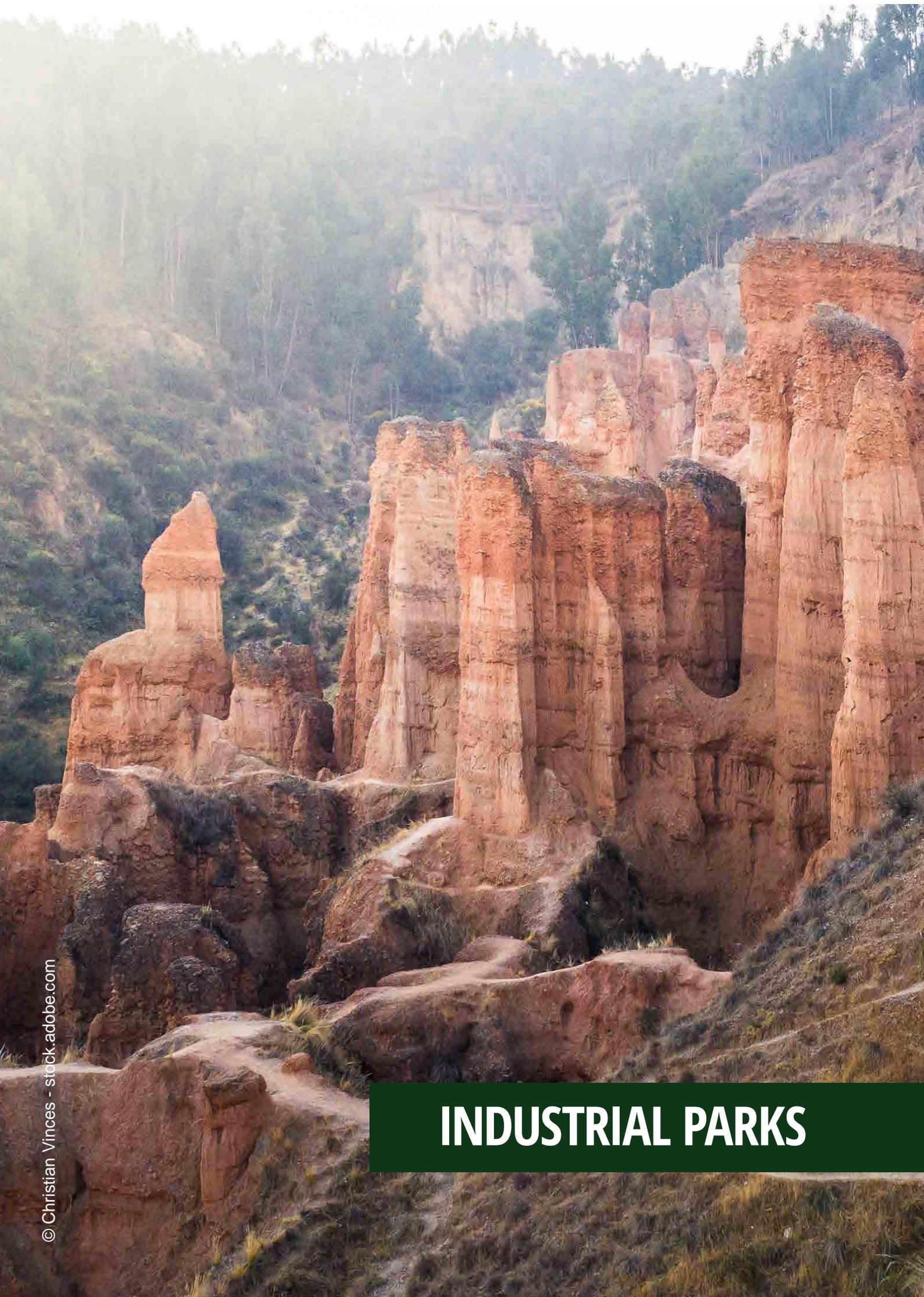
- Ministry of Foreign Trade and Tourism



Investment amount:

US\$ 261 million





© Christian Vincens - stock.adobe.com

INDUSTRIAL PARKS

INDUSTRIAL PARK OF ANCON (PIA)

Estimated date
of declaration
of interest

IV Quarter

2025

TRANSACTION



The Industrial Park of Ancon (PIA) is the first and only industrial park in northern Lima, strategically located between the ports of Chancay (40 km) and Callao (39 km), near Jorge Chavez International Airport (33 km).

With excellent connectivity through the Pan-American Highway North and Nestor Gambeta Avenue, the PIA offers an ideal setting for industrial and logistics activities, positioning itself as an international benchmark for productive development.



People benefited:

- 400, 000 inhabitants

Granting Authority

- Ministry of Production



Investment amount:

US\$ 1.2 billion



AIRPORTS

THIRD AIRPORTS GROUP

Structuring
phase to start in

IV Quarter

2025

FORMULATION



The Third Airport Group Project seeks to improve air connectivity through the modernization, rehabilitation, operation, and maintenance of eight regional airports: Jaen, Huanuco, Jauja, Ilo, Rioja, Chimbote, and Yurimaguas, along with the Chinchero International Airport in Cusco.

The initiative aims to ensure efficient and safe airport services, encourage private sector participation, and strengthen aeronautical development across the regions of Ancash, Cajamarca, Huanuco, Junin, Loreto, Moquegua, San Martin, and Cusco.



Concession Period

- 25 years term

Granting Authority

- Ministry of Transport and Communications



Investment amount:

US\$ 315.00 MM



ROADS

ROAD CORRIDOR: CARRIZALES (CASMA) – PARIACOTO – HUARAZ – TOURIST CIRCUIT BRIDGE (VIEWPOINT)

GROUP 1

Structuring phase to start in

I Quarter

2026

FORMULATION



The project involves road management and maintenance activities based on service level standards to ensure the continuous and efficient operation of a 166,905 km road network, benefiting 169,580 inhabitants.



Main Works

- Conservation of the road corridor through periodic and routine maintenance
- Operation of the road to ensure proper service levels and user safety

Concession Period

- 20-year term

Granting Authority

- Ministry of Transport and Communications



Investment amount:

US\$ 124 million

ROAD CORRIDOR: CUSCO – PISAC / URUBAMBA – CHINCHEROS – CACHIMAYO / HUACARPAY – OLLANTAYTAMBO – DIV. SANTA TERESA

Structuring
phase to start in

I Quarter

2026

FORMULATION



This project involves the operation and maintenance of 281 km of road network under service level standards, aiming to ensure continuous, safe, and efficient road performance, benefiting 305 thousand inhabitants.



Main Works

- Conservation of the road corridor through periodic and routine maintenance
- Operation of the road to ensure proper service levels and user safety

Concession Period

- 20-year term

Granting Authority

- Ministry of Transport and Communications



Investment amount:

US\$ 138 million

ROAD CORRIDOR 6: DIV. CERRO DE PASCO – HUANUCO – TINGO MARIA – JCT. PE5N (PUMAHUASI BRIDGE)

Structuring phase to start in

I Quarter

2026

FORMULATION



The project involves the operation and maintenance of 250 km of the national routes P-3N and P-18A, located in the departments of Pasco and Huanuco, and crossing the provinces of Pasco, Ambo, Huanuco, and Leoncio Prado, benefiting 551 thousand inhabitants.



Main Works

- Conservation of the road corridor through periodic and routine maintenance
- Operation of the road to ensure proper service levels and user safety

Concession Period

- 20-year term

Granting Authority

- Ministry of Transport and Communications



Investment amount:

US\$ 151 million

ROAD CORRIDOR: SICUANI – PUCARA – CALAPUJA / PUNO – DESAGUADERO

Structuring
phase to start in

I Quarter

2026

FORMULATION



The project involves road management and maintenance under service level standards, aiming to ensure continuous and efficient operation across 328 km, benefiting an estimated population of 448,058.



Main Works

- Conservation of the road corridor through periodic and routine maintenance
- Operation of the road to ensure proper service levels and user safety

Concession Period

- 20-year term

Granting Authority

- Ministry of Transport and Communications



Investment amount:

US\$ 143 million

ROAD CORRIDOR: DIV. LAS VEGAS – MAZAMARI – PORT OCOPA / TARMA – JAUJA / PORT STUART – HUANCAYO / MAZAMARI – CUBANTIA

Structuring
phase to start in

I Quarter

2026

FORMULATION



The project involves road management and maintenance activities based on service level standards (operations and upkeep). The objective is to ensure the continuous and efficient operation of roads, maintaining adequate levels of service for traffic flow, benefiting 545 thousand inhabitants.



Main Works

- Conservation of the road corridor through periodic and routine maintenance
- Operation of the road to ensure proper service levels and user safety

Concession Period

- 20-year term

Granting Authority

- Ministry of Transport and Communications



Investment amount:

US\$ 242 million

ROAD CORRIDOR 4: JCT. PE 18A (DIV. TINGO MARIA) – AUCAYACÚ – NUEVO PROGRESO – TOCACHE – JUANJUI – PICOTA – TARAPOTO

Structuring phase to start in

I Quarter

2026

FORMULATION



The project involves the maintenance and operation of the 458.3 km PE-5N national route, which crosses the provinces of Leoncio Prado, Tocache, Mariscal Caceres, Huallaga, Bellavista, Picota, and San Martin, located in the departments of Huanuco and San Martin, benefiting 1 million inhabitants.

Main Works



- Conservation of the road corridor through periodic and routine maintenance
- Operation of the road to ensure proper service levels and user safety

Concession Period

- 20-year term

Granting Authority

- Ministry of Transport and Communications



Investment amount:

US\$ 397 million

ROAD CORRIDOR: ATICO – DIV. QUILCA – MATARANI – ILO / DIV. COCACHACRA – VENTILLATA

Structuring
phase to start in

I Quarter

2026

FORMULATION



The project involves road management and maintenance services, ensuring a consistent level of service for road users. The project covers 389.10 km of road, including a 22.10 km section with improved geometric design and a flexible pavement surface, benefiting 153, 000 inhabitants.



Main Works

- Conservation of the road corridor through periodic and routine maintenance
- Operation of the road to ensure proper service levels and user safety

Concession Period

- 20-year term

Granting Authority

- Ministry of Transport and Communications



Investment amount:

US\$ 184 million

ROAD CORRIDOR: PTE. LOS MAESTROS – HUAYTARA / CHINCHA ALTA– LACHOCC/ MAL PASO– PISCO – PUERTO SAN MARTIN

GROUP 2

Structuring phase start date

To be decided

FORMULATION



The project includes road management and maintenance by service levels, with pavement and recycling improvements over 200.9 km and the Chincha–Palca–Villa Arma section (77.23 km), covering 420.9 km and benefiting 342,225 inhabitants.



Main works

- Improvements by service level of the Huachos (Arma) - Lachocc / Huamani - Huaytara Highway (200.9 km)
- Improvement of the Chincha - Palca - Villa Arma section (77.23 km)
- Improvement with paving to a basic level
- Preventive maintenance to address deterioration before it worsens

Concession Period

- 20-year term

Granting Authority

- Ministry of Transport and Communications



Investment amount:

US\$ 487.39 million

ROAD CORRIDOR: DV. CHIGUATA – SANTA LUCIA – MAÑAZO / IMATA – HECTOR TEJADA / PASCANA – YAURI – SAN GENARO

Structuring
phase start date

To be decided

FORMULATION



It consists of Road Management and Maintenance by Service Levels, in addition to the rehabilitation and improvement of the DV. Chiguata–Santa Lucía section, with a length of 195.04 km.

The objective is to ensure the permanent operation of the roads with adequate service levels for transitability. The project covers a total length of 608 km and will benefit a population of 318,212 inhabitants.



Main Works

- Section 1: Approx. 50 km, a 7.20 m roadway has been designed with 2.80 m berms on each side and a climbing lane, a 30 mm thick rigid pavement slab, 15.0 cm sub base
- Section 2 and 3: Approx. 98.38 km in length, design of a 7.20 m roadway and 2.60 m berms on each side; flexible pavement with 15.0 cm asphalt mix, 35.0 cm granular base and 22.0 cm thick subbase

- Section 4: Approx. 46.66 km includes a 7.20 m roadway design with 2.60 m berms on each side, a 15 cm flexible pavement, a 35 cm granular base and a 22.0 cm thick subbase

Concession Period

- 20-year term

Granting Authority

- Ministry of Transport and Communications



Investment amount:

US\$ 647.01 million



SANTA – BR. CHUQUICARA – TAUCA – DV. SIHUAS / BR. HUAROCHIRI – BR. CHUQUICARA / TAUCA – SHOREY

Structuring
phase start date

To be decided

FORMULATION



It consists of Road Management and Maintenance by Service Levels, in addition to the rehabilitation and improvement of the Santiago de Chuco – Mollepata – Pallasca section (106.4 km) and the improvement of the Santa – Huallanca road (134.6 km).

The objective is to ensure the permanent operation of the roads with adequate service levels for transitability. The project covers a total length of 508 km and will benefit a population of 341,195 inhabitants.



Main works

- Rehabilitation and improvement of the Pallasca - Mollepata - Mollebamba - Santiago de Chuco road, connection route No. 10. Section: Santiago de Chuco - Mollepata - Pallasca (106.4 km)
- Improvement of the Santa – Huallanca road (134.6 km)

Concession Period

- 20-year term

Granting Authority

- Ministry of Transport and Communications



Investment amount:

US\$ 965.11 million



ROAD CORRIDOR KIMBIRI – KEPASHIATO – QUILLBAMBA – SANTA TERESA – BR. HIDROELECTRICA

GROUP 3

Structuring
phase start date

To be decided

FORMULATION



It involves Road Management and Maintenance by Service Levels to ensure continuous road operation and adequate service conditions across 341 km, benefiting around 132,392 inhabitants.



Main Works

- Preventive maintenance to address deterioration before it worsens
- Routine, periodic, and emergency maintenance activities
- Operation and maintenance over 341 km of roads

Concession Period

- 20-year term

Granting Authority

- Ministry of Transport and Communications



Investment amount:

US\$ 155.26 million

ROAD CORRIDOR 1: CONNECTION PE-3S (DV. IMPERIAL) – PAMPAS – ABRA INDEPENDENCIA – CHURCAMPA – CONNECTION PE-3S (MAYOCC) / CONNECTION PE-3S (LA MEJORADA) – PUCACRUZ – ACOBAMBA – CAJA – MARCAS – CONNECTION PE-3S (BR. ALLCOMACHAY)

Structuring
phase start date

To be decided

FORMULATION



This project is part of the national routes PE-3SM and PE-3SD, which cross the districts of Ñahuimpuquio, Acostambo, Huaribamba, Acraquia, Ahuaycha, Pampas, Daniel Hernandez, Colcabamba, Quichuas, Chinchihuasi, Cosme, Paucarbamba, San Pedro de Coris, and Locroja, located in the provinces of Huancavelica, Churcampa, Acobamba, and Pampas, in the Huancavelica Region, with a total length of 334.06 km.

The project consists of implementing interventions to achieve service levels, as well as the maintenance of the road corridor, including periodic and routine maintenance, in addition to the operation of the road.



Main Works

- Improvement of road corridors with a pavement level intervention with basic solution
- Portland Cement Stabilized Base
- Placement of a Double Surface Treatment (DST) layer
- Maintenance and operation on the 334.06 km of length

The project will benefit 6000 inhabitants

Concession Period

- 20-year term

Granting Authority

- Ministry of Transport and Communications



Investment amount:

US\$ 211.44 million



ROAD CORRIDOR 5: DV. POMABAMBA – SIHUAS – HUACRACHUCO – SAN PEDRO DE CHONTA – UCHIZA – CONNECTION PE-5N

Structuring
phase start date

To be decided

FORMULATION



© Tom Nevesely - stock.adobe.com



The project, part of national route PE-12A (271.79 km), spans the provinces of Sihuas, Pomabamba, Pataz, Marañón, and Tocache across Huanuco, San Martín, and Ancash. It includes interventions to ensure adequate service levels and ongoing road maintenance and operation, benefiting 34 thousand inhabitants.



Main Works

- Soil stabilization with portland cement plus additive (sulfonated oil) and placement of TSS in Sections II, III and V and double microsurfacing in Section IV
- Maintenance, upkeep and operation of 271.79 km in length

Concession Period

- 20-year term

Granting Authority

- Ministry of Transport and Communications



Investment amount:

US\$ 151.29 million

GROUP 4: VIA DE EVITAMIENTO HIGHWAY OF CUSCO, DISTRICT OF SANTIAGO OF THE PROVINCE AND DEPARTMENT OF CUSCO

GROUP 4

Structuring phase start date

To be decided

FORMULATION



The project involves the construction, maintenance, and operation of the 14.11 km Cusco Bypass Road, which includes a twin tunnel, viaducts, bridges, and interchanges. It aims to provide an alternate route through Cusco with efficient design and smooth traffic flow for local and long-distance vehicles, benefiting 430,000 inhabitants.



Main Works

- A twin tunnel, viaducts, bridges, and interchanges to create an alternate route through Cusco, designed to ensure smooth traffic flow for local and long-distance vehicles with proper service levels

Concession Period

- 20-year term

Granting Authority

- Ministry of Transport and Communications MTC



Investment amount:

US\$ 738.27 million

GROUP 4: CONNECTION ROAD 1B – BUENOS AIRES – CANCHAQUE / KM 71+600 – HUANCABAMBA

Structuring
phase start date

To be decided

FORMULATION



This project is part of the national route PE-2A, which crosses the districts of Buenos Aires, Salitral, Canchaque, El Faique, Sondorillo, and Huancabamba, located in the provinces of Morropon and Huancabamba, in the Piura Region, with a total length of 148 km.

It involves the design, construction, operation, and periodic-routine maintenance from Empalme 1B to Canchaque (76.9 km) and then from km 71+600 to Huancabamba (71.4 km).



Main Works

- 6.60 m roadway with berms of 0.50 m and 1.20 m
- Design speed 30 km/h
- Placement of Flexible Pavement $e = 7.5$ cm
- The hydraulic works are sewerages, speed bumps, ditches, crown
- Ditches
- Support and/or containment structures

Benefiting population

- 277,00 inhabitants

Concession Period

- 20-year term

Granting Authority

- Ministry of Transport and Communications



Investment amount:

US\$ 179.36 million





© Zhu Difeng - stock.adobe.com

ELECTRICITY

ELECTRICITY PORTFOLIO

This electricity portfolio comprises the design, financing, construction, operation and maintenance of 18 electricity transmission projects from the Ministry of Energy and Mines' 2025–2034 Transmission Plan, distributed across four groups.

Taken together, this portfolio represents an estimated investment of over **US\$ 915 million**, aimed at consolidating the expansion and modernization of the National Interconnected Electricity System (SEIN), ensuring a safer, more efficient system that is ready to meet Peru's growing energy demand.



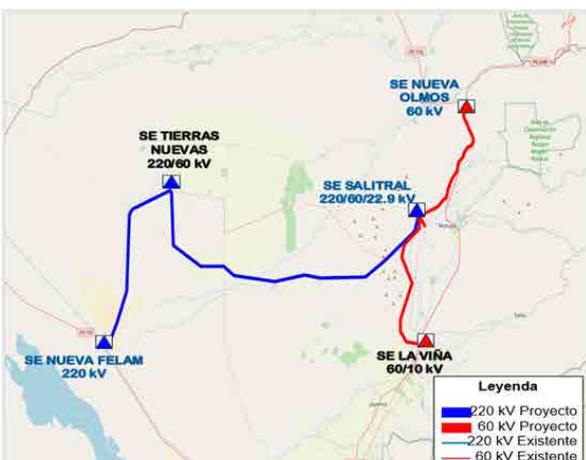
GROUP 1

1. 500 KV MIGUEL GRAU – PARIÑAS LINK AND 500/220 KV PARIÑAS SUBSTATION, EXTENSIONS AND ASSOCIATED SUBSTATIONS:



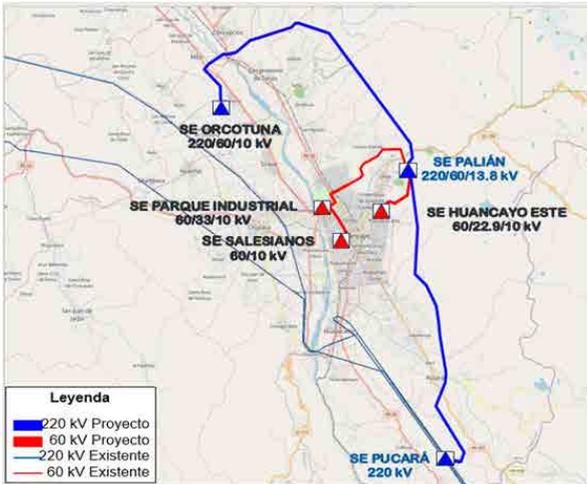
This project will enhance reliability in the Talara/Pariñas and Tumbes area, while also increasing the evacuation capacity of RER wind generation in the Pariñas area. The area of influence is the department of Piura and the investment amounts to US\$ 81 million.

2. 220 KV FELAM – TIERRAS NUEVAS– SALITRAL LINKS, EXTENSIONS AND ASSOCIATED SUBSTATIONS (ITC PROJECT)



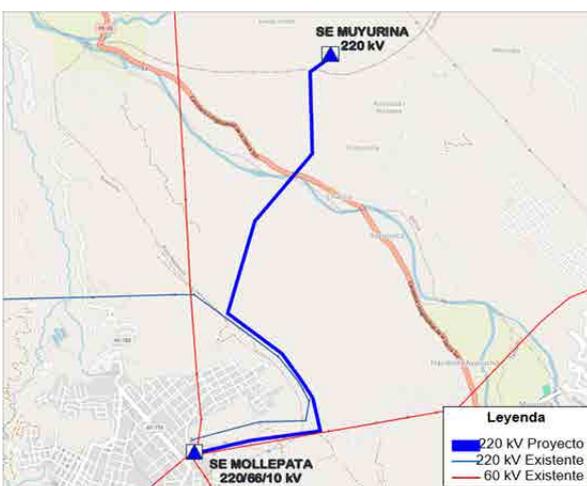
This project will improve transmission reliability at 220 kV and 60 kV in the Tierras Nuevas – Pampa Pañala and Motupe – Olmos area (N-1 condition). The area of influence is the department of Lambayeque and the investment amounts to US\$ 70 million.

3. NEW 220/60 KV PALIAN SUBSTATION AND ASSOCIATED 220 KV AND 60 KV LINKS (ITCPROJECT):



This project will improve 220 kV transmission reliability in the Huancayo area (N-1 condition) and increase supply capacity at 220 kV (new injection point). The area of influence is the department of Junin and the investment amounts to US\$ 73 million.

4. 220 KV MUYURINA – MOLLEPATA LINK, EXTENSIONS AND ASSOCIATED SUBSTATIONS (ITC PROJECT):



This project will improve transmission reliability at 220 kV and 60 kV in the Tierras Nuevas – Pampa Pañala and Motupe – Olmos area (N-1 condition). The area of influence is the department of Lambayeque and the investment amounts to US\$ 70 million.

Call for bids
for group 1

IV Quarter

2025

STRUCTURING



Main Works

- 6.60 m roadway with berms of 0.50 m and 1.20 m
- Design speed 30 km/h
- Placement of Flexible Pavement $e= 7.5$ cm
- The hydraulic works are sewerages, speed bumps, ditches, crown
- Ditches
- Support and/or containment structures

Concession Period

- 30 years + construction period

Granting Authority

- Ministry of Energy and Mines



Investment amount:

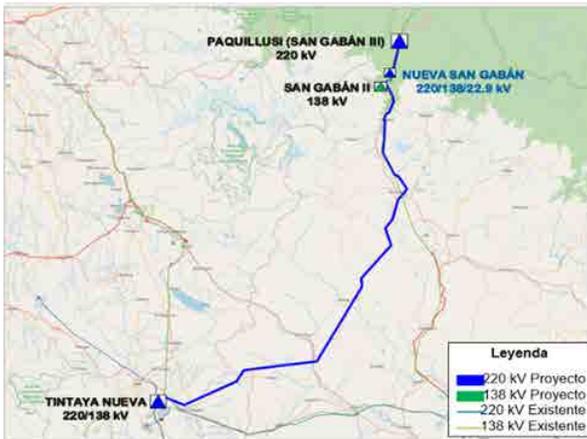
US\$ 231 MM

MAP OF GROUP 1



GROUP 2

1. 220 KV TINTAYA NUEVA – NUEVA SAN GABAN LINK, EXTENSIONS AND ASSOCIATED SUBSTATIONS:



This project will provide greater reliability and transmission capacity to the San Gabán – Azangaro area, including the Puerto Maldonado system. The area of influence covers the departments of Cusco and Puno, with an investment of US\$ 122 million.

2. 220 KV NUEVA SAN GABAN – PUERTO MALDONADO LINK, EXTENSIONS AND ASSOCIATED SUBSTATIONS (ITC PROJECT):



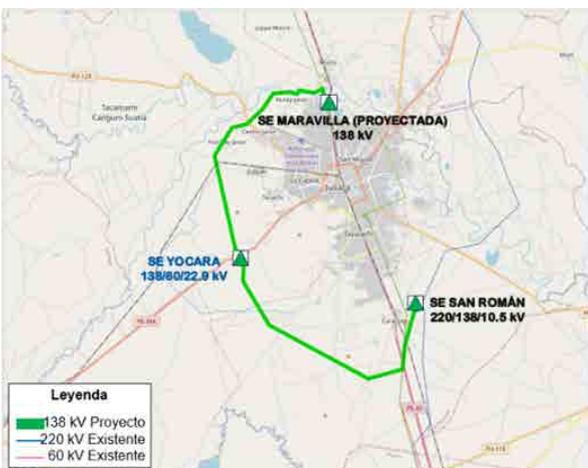
This project will improve transmission reliability at 220 kV and 138 kV in the Mazuco – Puerto Maldonado area (N-1 condition). The area of influence covers the departments of Puno and Madre de Dios, with an investment of US\$ 125 million.

3. 500 KV COLECTORA – BICENTENARIO – CHILCA LINK, EXTENSIONS AND ASSOCIATED SUBSTATIONS



This project will strengthen the reliability and capacity of the South-Central system. This line forms part of the longitudinal axis of the SEIN's 500 kV trunk transmission scheme. The area of influence covers the departments of Ica and Lima, with an investment of US\$ 188 million.

4. 138 KV SAN ROMÁN – YOCARA – MARAVILLA (JULIACA) LINK, EXTENSIONS AND ASSOCIATED SUBSTATIONS (ITC PROJECT):



This project aims to enhance the reliability of the 138 kV transmission system in Juliaca under the N-1 condition, ensuring a stable and secure power supply. It will benefit the department of Puno and involves an investment of US\$ 9 million.

Call for tender
for group 2

IV Quarter

2025

STRUCTURING



Modality

- Public-Private Partnership (PPP) – Self-financed State Initiative (SFI)

Concession Period

- 30 years + construction period

Granting Authority

- Ministry of Energy and Mines



Investment amount:

US\$ 444 MM



MAP OF GROUP 2



GROUP 3

1. 138 KV NUEVA VIRU – TRUJILLO SUR LINK, EXTENSIONS AND ASSOCIATED SUBSTATIONS (ITC PROJECT):



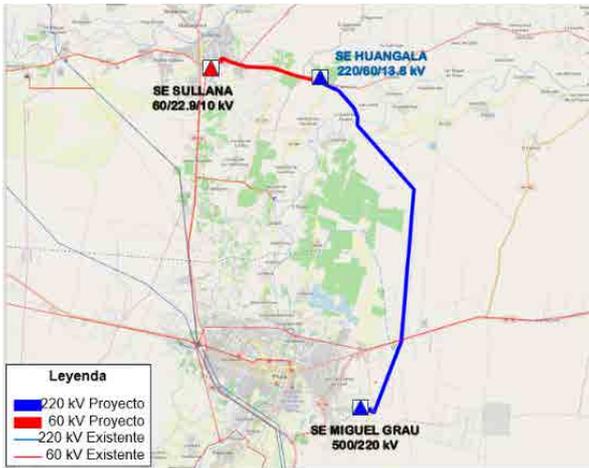
This project will enhance the reliability of the 138 kV transmission system in the Trujillo area under N-1 conditions, ensuring a secure electricity supply. It covers the department of La Libertad, with an investment of approximately US\$ 9 million.

2. NEW 220/138 KV MOCHE SUBSTATION AND ASSOCIATED 138 KV AND 220 KV LINKS (ITC PROJECT):



This project will enhance supply reliability in the urban area of Trujillo (providing an additional supply point) and extend the 138 kV network towards the south of the city. The area of influence is the department of La Libertad, with an investment of US\$ 36 million.

3. 220 KV MIGUEL GRAU – SULLANA LINK, EXTENSIONS AND ASSOCIATED SUBSTATIONS (ITC PROJECT):



This project will improve supply reliability in the urban area of Sullana and enable the expansion of the 60 kV network towards Cieneguillo and Tambo Grande. The area of influence is the department of Piura, with an investment of US\$ 33 million.

4. 220 KV MIGUEL GRAU – CHULUCANAS LINK, EXTENSIONS AND ASSOCIATED SUBSTATIONS (ITC PROJECT):



This project seeks to improve the reliability of the water supply in Chulucanas, Morropon, and Loma Larga, ensuring consistent service and better water availability for local populations. It covers the department of Piura, with an estimated investment of US\$ 35 million.

5. NEW 220/50 KV ANTUQUITO ESTE SUBSTATION AND ASSOCIATED 220 KV AND 50 KV LINKS (ITC PROJECT):

This project will improve 50 kV transmission reliability in the Morococha – Casapalca – San Mateo area (N-1 condition). The area of influence covers the departments of Lima and Junín, with an investment of US\$ 24 million.



Call for tender
for group 3

I Quarter

2026

FORMULATION



Contractual Modality

- DFBOT (Design, Finance, Build, Operate and Transfer)

Concession Period

- 30 years + construction period

Granting Authority

- Ministry of Energy and Mines



Investment amount:

US\$ 137 MM

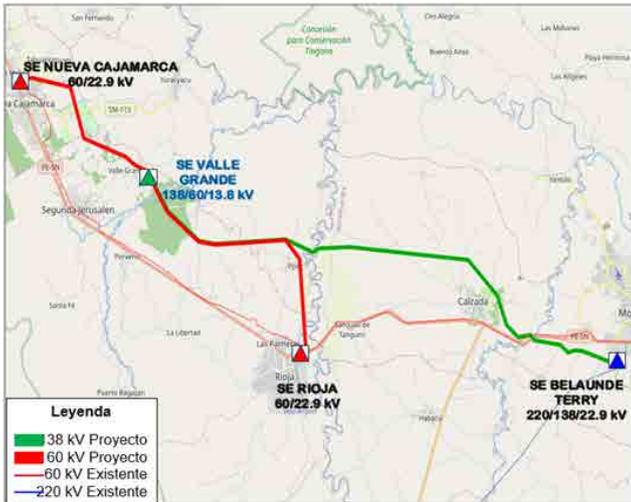


MAP OF GROUP 3



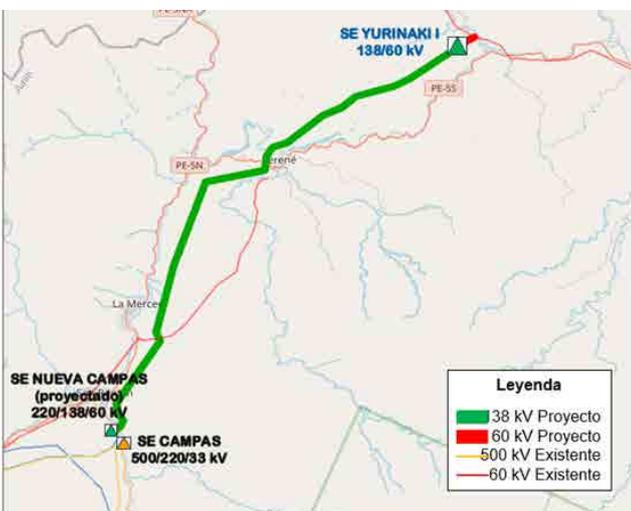
GROUP 4

1. 138 KV BELAUNDE TERRY – VALLE GRANDE LINKS, EXTENSIONS AND ASSOCIATED SUBSTATIONS (ITC PROJECT):



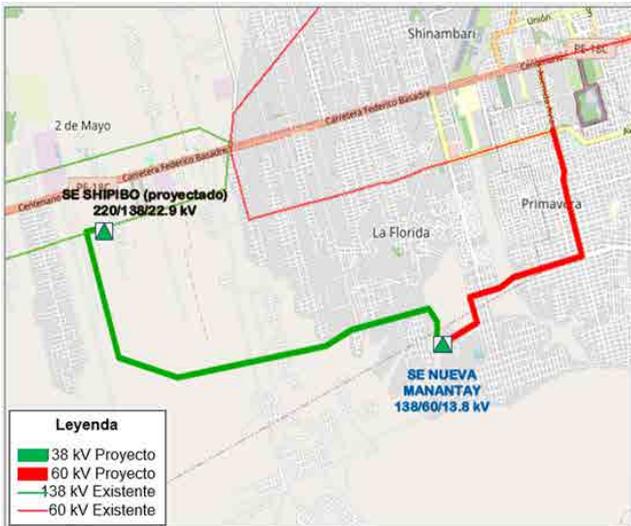
This important project will significantly improve overall transmission reliability at 138 kV and 60 kV in the Moyobamba – Rioja – Nueva Cajamarca area (N-1 condition). The area of influence is the department of San Martín, with an investment of US\$ 30 million.

2. 138 KV CAMPAS – YURINAKI LINK, EXTENSIONS AND ASSOCIATED SUBSTATIONS (ITC PROJECT):



This project will improve reliability of the 138 kV and 60 kV transmission systems in the Oxapampa – Villa Rica – Pichanaki area (N-1 condition). The area of influence covers the department of Junín, with an estimated investment of US\$ 21 million.

3. 138 KV SHIPIBO – MANANTAY LINK, EXTENSIONS AND ASSOCIATED SUBSTATIONS (ITC PROJECT):



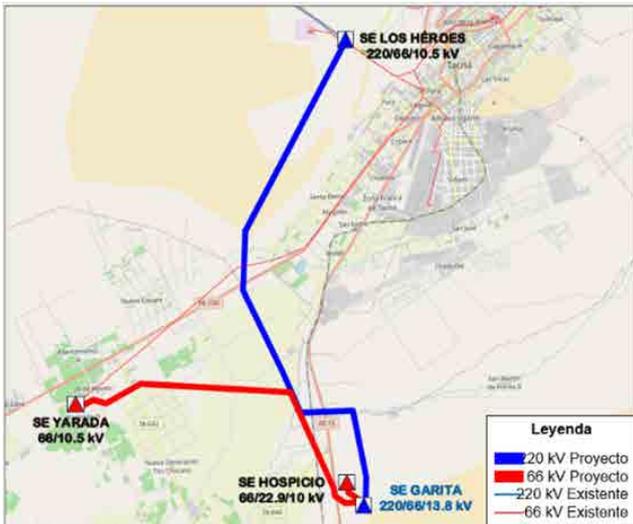
This project will improve 138 kV transmission reliability along the Shipibo Substation – Pucallpa ISA Substation section (N-1 condition), ensuring a more stable and secure electricity supply. The area of influence is the department of Ucayali, with an investment of US\$ 13 million.

4. NEW 220/60 KV VIÑEDOS SUBSTATION AND ASSOCIATED LINKS (ITC PROJECT):



This important project will enhance the reliability of the 220 kV transmission system in the Villacurí area (N-1 condition) and increase supply capacity with a new injection point. The area of influence broadly covers the department of Ica, with an estimated investment of US\$ 22 million.

5. 220 KV LOS HEROES – GARITA LINKS, EXTENSIONS AND ASSOCIATED SUBSTATIONS (ITC PROJECT):



This project will resolve transformer overloads at the 220/66 kV Los Héroes Substation. It will also improve transmission reliability at 220 kV and 66 kV in the Tacna – Yarada area. The area of influence is the department of Tacna, with an investment of US\$ 36 million.



Call for tender
for group 4

I Quarter

2026

FORMULATION



Contractual Modality

- DFBOT (Design, Finance, Build, Operate and Transfer)

Concession Period

- 30 years + construction period

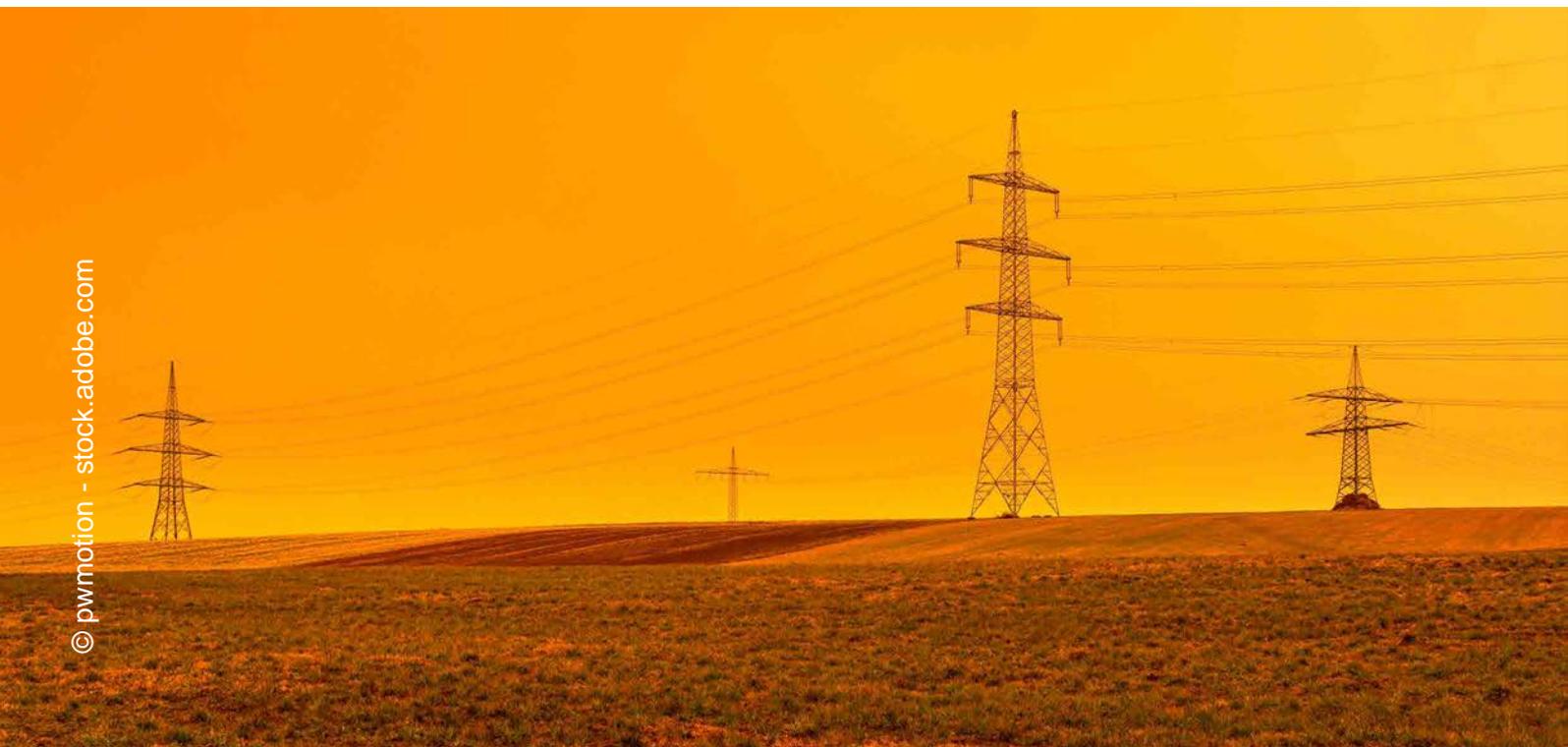
Granting Authority

- Ministry of Energy and Mines

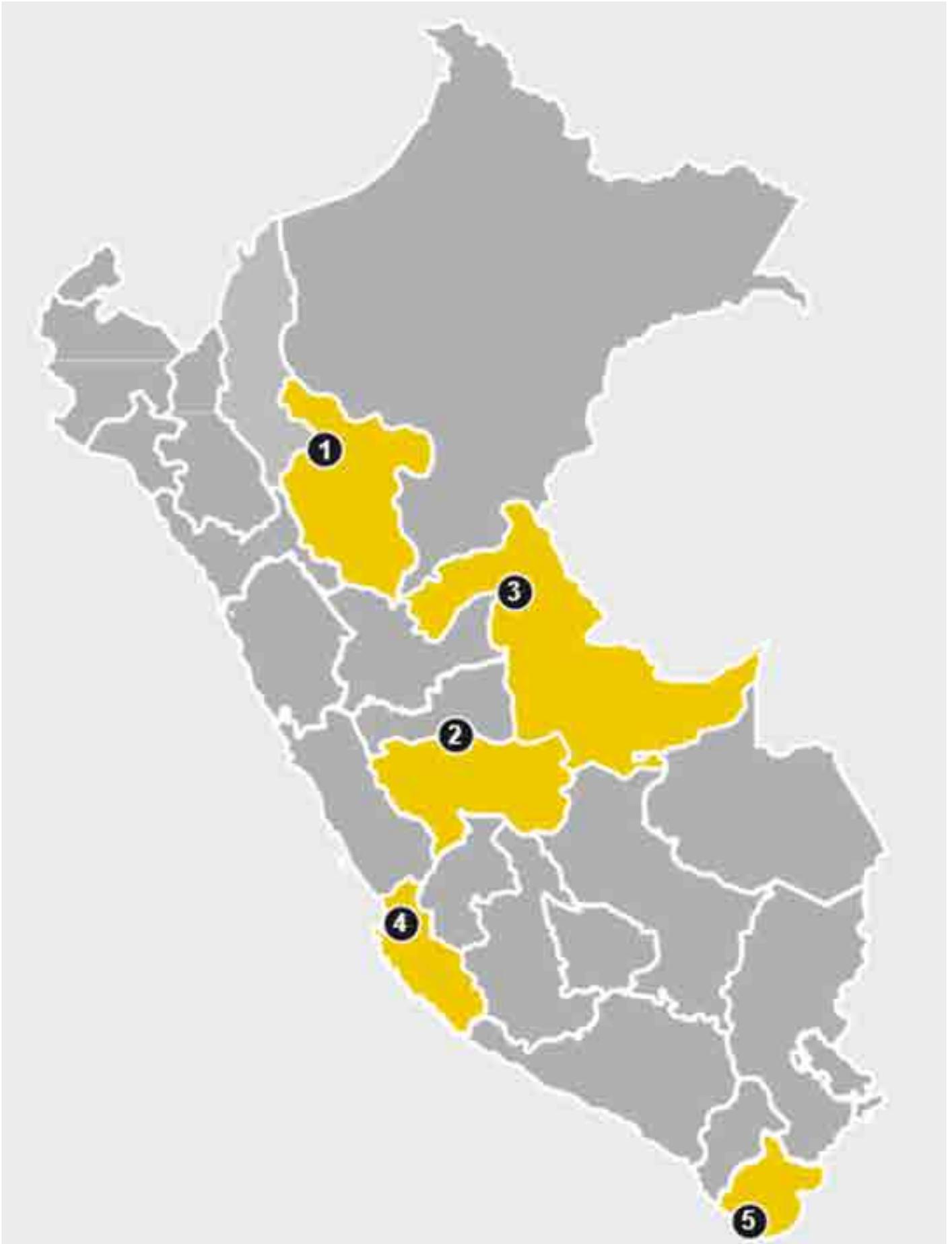


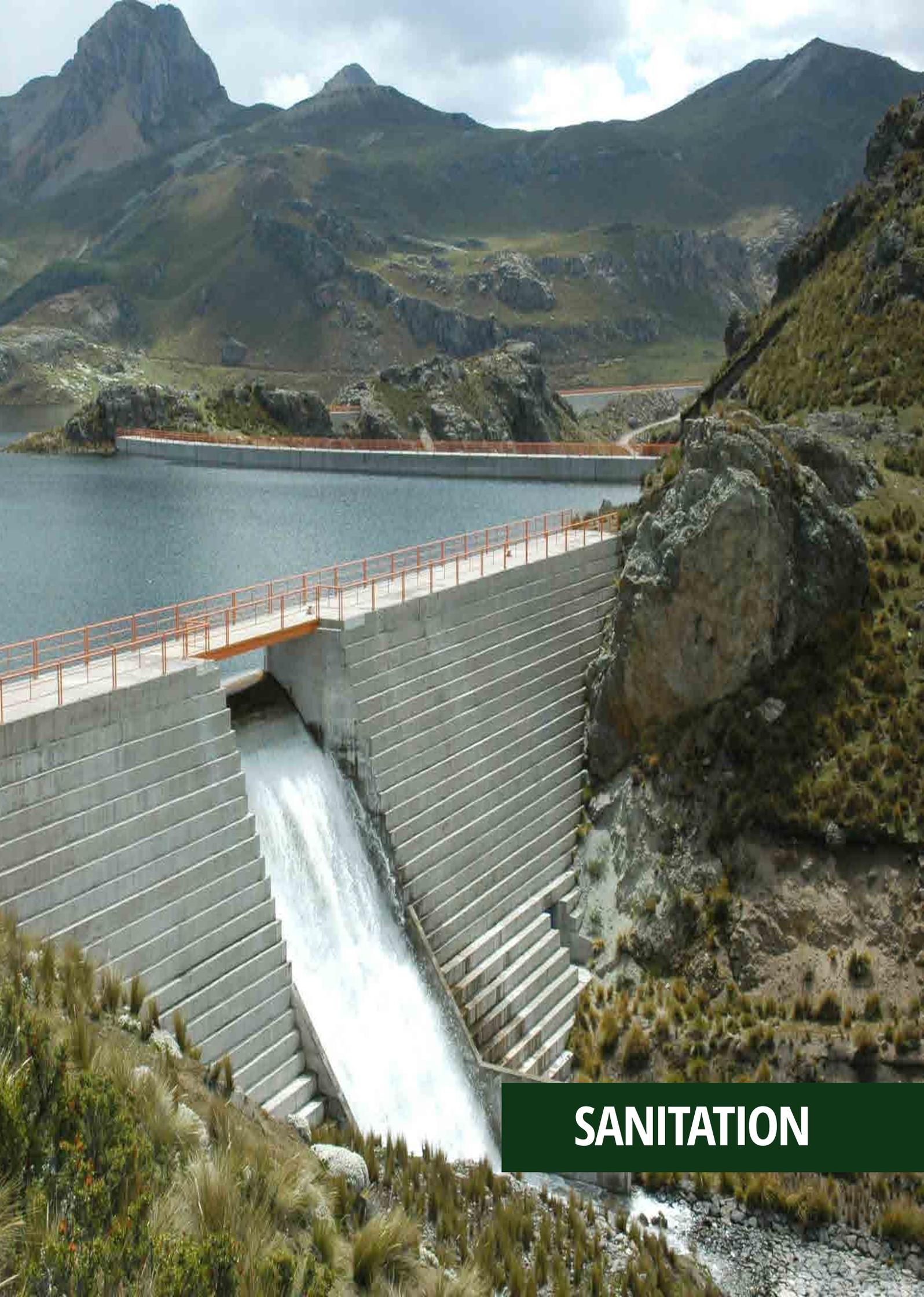
Investment amount:

US\$ 122 MM



MAP OF GROUP 4





SANITATION

HEADWORKS AND CONVEYANCE WORKS FOR THE DRINKING WATER SUPPLY FOR LIMA – PHASE 1

Estimated
award date

December
2025*

TRANSACTION



It entails the design, financing, construction, operation and maintenance of new and existing works, with the aim of increasing the availability of drinking water to expand and improve the service for 1.5 million inhabitants in the eastern and southern areas of Lima.



Main Works- Phase 1

- **Huachipa II Plant:** Phase 1 of 2.5 m³/s and Phase 2 of 5 m³/s
- **Main Huachipa Reservoir** (160,000 m³)
- **Southern Branch:** 26 km with 5 reservoirs (69,000 m³)
- **Interconnection Lines** (60 km)
- **O&M of Huachipa I Plant**

Concession Period

- 30 years

(*) Estimated deadline that may be extended

Granting Authority

- Ministry of Housing, Construction and Sanitation



Investment amount:

US\$ 472 million

Source: <https://info.investinperu.pe/en/app-pa/headworks-and-conveyance-for-water-supply-in-lima/>



WASTEWATER TREATMENT PLANT PROJECT FOR THE CITIES OF TARAPOTO AND SAN JOSÉ DE SISA

Estimated date
of declaration of
interest

IV Quarter

2025

FINAL TRANSACTION



© bilanol - stock.adobe.com



The project proposes the design and construction of sanitation infrastructure (interceptors, pumping stations, wastewater treatment plant and outfall), as well as the operation and maintenance of a wastewater treatment plant for the cities of Tarapoto and San Jose de Sisa. The number of beneficiaries is estimated at 276,000 inhabitants.



Main Works- Phase 1

- 14 km of interceptor and collector lines
- 5 pumping stations in total
- 2 wastewater treatment plants with a combined capacity of 0.7 m³/s

Concession Period

- 24 years

Granting Authority

- Ministry of Housing, Construction and Sanitation



Investment amount:

US\$ 144 million

WASTEWATER TREATMENT FOR FINAL DISPOSAL OR REUSE TRUJILLO AND CHEPEN

Estimated date of declaration of interest

I Quarter

2026

STRUCTURING



© THINK b - stock.adobe.com



The project proposes the design and construction of sanitation infrastructure (sewer collector networks, sewage pumping stations, rising main, sewer outfalls, wastewater treatment plant), as well as the operation and maintenance of three wastewater treatment plants for Metropolitan Trujillo, Salaverry and Chepen. The project is expected to benefit an estimated 852,000 inhabitants.



Main Works

- Improvement of interceptor and collector lines
- 3 wastewater treatment plants with a total capacity of 2.4 m³/s

Concession Period

- 25 years

Granting Authority

- Ministry of Housing, Construction and Sanitation



Investment amount:

US\$ 427 million

WASTEWATER TREATMENT FOR FINAL DISPOSAL OR REUSE - PROVINCE OF CUSCO

Call for Tender

IV Quarter

2025

STRUCTURING



The project proposes the design and construction of sanitation infrastructure (collector networks and a wastewater treatment plant), as well as the operation and maintenance of the San Jeronimo wastewater treatment plant in Cusco. The project is expected to benefit approximately 746,000 inhabitants.



Main Works

- 3 km of the General Collector
- 13 km of the Huatanay Collector
- San Jeronimo WWTP (with an average capacity of up to 938 litres/second)

Concession Period

- 24 years

Granting Authority

- Ministry of Housing, Construction and Sanitation



Investment amount:

US\$ 98 million

連絡先

CONTACT INFORMATION

Ministerio de Relaciones Exteriores del Peru

ペルー共和国外務省

Address: Jr. Lampa 545, Lima, Lima, Perú

TEL (代表): +51-1-204-2400

経済振興本部: +51-1-204-3360

貿易振興部: +51-1-204-3368

投資振興部: +51-1-204-3384

観光振興部: +51-1-204-3391

Embajada del Peru en Japon

在日ペルー共和国大使館

Address: 〒150-0012東京都渋谷区広尾2-3-1

TEL: +81-3-3406-4243

FAX: +81-3-3409-7589

Email: embtokyo@embperujapan.org

ProInversion

民間投資促進庁

Address: Av. Enrique Canaval Moreyra 150, Piso 9,
San Isidro, Lima

TEL: +51-1-200-1200

FAX: +51-1-221-2941

URL: <https://www.proinversion.gob.pe>

The Japan & Tokyo Chamber of Commerce and Industry

日本商工会議所・東京商工会議所

Address: 〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-2-2

TEL: +81-3-3283-7762

URL: <https://www.tokyo-cci.or.jp/>



本書は在日ペルー大使館が編集したものです。内容は三井物産株式会社、日本商工会議所、日本ペルー経済委員会、日本貿易振興機構（JETRO）、米州開発銀行（IDB）、国土交通省、ペルー共和国エネルギー・鉱山省、ならびにペルー民間投資促進庁（PROINVERSIÓN）の協力により作成されました。

写真：
ペルー民間投資促進庁（PROINVERSIÓN）、Adobe Stock.

This book has been published by the Embassy of Peru in Japan. Its content has been prepared with the valuable collaboration of Mitsui & Co., The Japan Chamber of Commerce and Industry (JCCI), CEPEJA, Japan External Trade Organization, Inter American Development Bank, Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism of Japan, Ministry of Energy and Mines of Peru and the Private Investment Promotion Agency of Peru (PROINVERSIÓN).

Photos:
Private Investment Promotion Agency of Peru (PROINVERSIÓN), Adobe Stock.

80°W

75°W

70°W



PERÚ

Ministerio de Relaciones Exteriores

Consejo Nacional de Desarrollo de Fronteras e Integración Fronteriza

Secretaría Ejecutiva



0°

0°

ECUADOR

COLOMBIA

Tumbes

TUMBES

Piura

PIURA

LAMBAYEQUE CAJAMARCA

Chiclayo

Chiclayo

Trujillo

LA LIBERTAD

Huaráz

ANCASH

Huánuco

Huánuco

Cerro de Pasco

PASCO

Callao

LIMA

Lima Cercado

Huancayo

JUNÍN

Huancavelca

Huancavelca

Ayacucho

AYACUCHO

Ida - 1

ICA

Ayacucho

AYACUCHO

Abancay

Abancay

Cusco

BRASIL

Rio Marañón

Huacapistán

Rio Javari

Huacapistán

Rio Madre de Dios

Huacapistán

Reserva Nacional Pacaya-Samiria

Huacapistán

Parque Nacional Alto Purús

Huacapistán

Parque Nacional del Manu

Huacapistán

Puerto Maldonado

Huacapistán

Puno

Huacapistán

Arequipa

Huacapistán

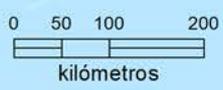
Moquegua

Huacapistán

Tacna

Huacapistán

Océano Pacífico



5°S

5°S

10°S

